

年 報
(令和6年度実績)

静岡県工業技術研究所

令和8年2月

目 次

1	概 況	
(1)	工業技術研究所の沿革	1
(2)	工業技術研究所全体の事業概要	3
(3)	工業技術研究所及び各工業技術支援センターの状況	4
(4)	工業技術研究所及び各工業技術支援センターの組織図	12
(5)	工業技術研究所及び各工業技術支援センターの職員	15
(6)	工業技術研究所及び各工業技術支援センターの決算	19
(7)	工業技術研究所及び各工業技術支援センターの主要購入機器設備	23
2	事業実績	
(1)	試験研究、調査及び指導事務	24
ア	研究開発	24
(ア)	研究課題	24
(イ)	外部研究員招へい事業	31
(ウ)	特許等の登録及び出願	34
イ	技術相談等	35
(ア)	技術相談	35
(イ)	依頼試験	37
(ウ)	機器使用等	42
(エ)	研究会の育成	43
(オ)	研修生の受入れ	44
ウ	技術情報提供	46
(ア)	研究報告関係	46
(イ)	研究発表会関係	46
(ウ)	研究所情報等の提供	51
(エ)	研究所の事業広報等	51
(オ)	講習会等	52
(カ)	講師活動	57
(キ)	委員派遣	63
(ク)	産業技術連携推進会議等への派遣	74
(ケ)	学会等への発表、外部発行誌等への投稿及び展示会への出展	78
(2)	令和6年度研究成果一覧	86
ア	工業技術研究所	86
イ	沼津工業技術支援センター	92
ウ	富士工業技術支援センター	94
エ	浜松工業技術支援センター	96

I 事務事業の概要

1 概況

(1) 工業技術研究所の沿革

- 明治39年 3月 「静岡県工業試験場（紙業部、漆器部、庶務部）」を静岡市追手町に、「染織部」を浜名郡天神町村馬込（現浜松市）に設置し、同年11月に開場
- 大正 2年 12月 「静岡県工業試験場（紙業部、漆器部、庶務部、染色科）」を静岡市水落町に移転
- 大正 4年 9月 「染織部」を「静岡県工業試験場浜松分場（染織部、図案部、庶務部）」に改称
- 大正 7年 「静岡県工業試験場浜松分場」を浜松市北寺島町に移転
- 大正 8年 12月 「静岡県工業試験場」を安倍郡豊田村南安東（後瓦場町、現静岡市葵区太田町）に移転
- 大正 9年 2月 「静岡県工業試験場」を「静岡県静岡工業試験場」に、「静岡県工業試験場浜松分場」を「静岡県浜松工業試験場」に改称
- 昭和12年 11月 「製紙部」を廃止、「静岡県製紙工業試験場」を富士郡今泉村（現富士市今泉）に設置
- 昭和13年 「静岡県工業試験場島田分場」を志太郡島田町に設置
- 昭和27年 4月 「静岡県浜松工業試験場」を「静岡県浜松繊維工業試験場」に、「静岡県製紙工業試験場」を「静岡県紙業指導所」に改称
- 昭和28年 1月 「静岡県静岡工業試験場」を静岡市安倍川町（現葵区駒形通5丁目）に移転
- 昭和28年 「静岡県工業試験場島田分場」を廃止
- 昭和32年 4月 「静岡県紙業指導所」を「静岡県製紙工業試験場」に改称
- 昭和36年 4月 「静岡県静岡工業試験場」を「静岡県工業試験場」に改称
- 昭和36年 6月 「静岡県工業試験場浜松分場」を浜松市小池町に設置
- 昭和38年 1月 「静岡県工業試験場浜松分場」を「静岡県機械技術指導所」と改称
- 昭和38年 12月 「静岡県製紙工業試験場」を吉原市伝法（現富士市永田北町）に移転
- 昭和42年 6月 「静岡県浜松繊維工業試験場福田技術指導所」を磐田郡福田町（現磐田市大原）に開所
- 昭和57年 12月 「静岡県工業試験場」を現在地（静岡市葵区牧ヶ谷）に移転
- 昭和59年 4月 「静岡県工業試験場」を「静岡県工業技術センター」に改称
- 平成 2年 4月 「静岡県工業技術センター」を「静岡県静岡工業技術センター」に改称、「沼津工業技術センター」を現在地（沼津市大岡）に開設
- 平成 3年 4月 「静岡県製紙工業試験場」を現在地（富士市大淵）に移転し、機械・電子部門を加え、「静岡県富士工業技術センター」に改称、「静岡県浜松繊維工業試験場」と「静岡県機械技術指導所」を統合し、光・電子部門を加え、「静岡県浜松工業技術センター」として浜松市北区（現浜名区）新都田1丁目に移転、開設

平成 4 年		「静岡工業技術センター」に開放棟が完成
平成 12 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「健康食品プロジェクトスタッフ」を設置
平成 13 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「ユニバーサルデザインプロジェクトスタッフ」を設置
平成 14 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「マイクロステージプロジェクトスタッフ」を設置
平成 14 年		都市エリア産学官連携促進事業（一般型）開始
平成 15 年	4 月	健康食品プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 15 年		連携大学院制度開始
平成 16 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「音響材料プロジェクトスタッフ」を設置、ユニバーサルデザインプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 17 年	4 月	マイクロステージプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 17 年		都市エリア産学官連携促進事業（発展型）開始
平成 18 年	4 月	「静岡工業技術センター」に「人間住環境プロジェクトスタッフ」、「おい計測プロジェクトスタッフ」を設置
平成 19 年	4 月	「沼津・富士・静岡・浜松工業技術センター」を統合し、「静岡県工業技術研究所」とし、「沼津・富士・浜松工業技術センター」を「工業技術支援センター」と名称変更、浜松工業技術支援センターにレーザー計測制御プロジェクトスタッフを設置
平成 20 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」に「えん下改善プロジェクトスタッフ」を設置
平成 21 年	4 月	「富士工業技術支援センター」に「高度コーティングプロジェクトスタッフ」を設置、人間住環境プロジェクト、おい計測プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 22 年	4 月	「沼津工業技術支援センター」に「微生物抗体開発プロジェクトスタッフ」を設置、レーザー計測制御プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 23 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」に「バイオマス循環プロジェクトスタッフ」を設置)、えん下改善プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 23 年	9 月	文部科学省から科研費応募資格を有する研究機関としての指定を受ける
平成 24 年	4 月	高度コーティングプロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 25 年	4 月	微生物抗体開発プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 26 年	3 月	「ものづくり産業支援窓口」を開設
平成 26 年	4 月	バイオマス循環プロジェクトの研究期間終了に伴い同スタッフを廃止
平成 28 年	9 月	「静岡県デザイン相談窓口」を開設
平成 29 年	4 月	「富士工業技術支援センター」製紙科を製紙・CNF科に改称
平成 30 年	4 月	「静岡県工業技術研究所」、「浜松工業技術支援センター」の機械科・電子

科をそれぞれ機械電子科として統合、「富士工業技術支援センター」の製紙・CNF科を製紙科、CNF科に改編、「静岡県工業技術研究所」の環境科を環境エネルギー科に改称

平成30年10月	「浜松工業技術支援センター」に「車載機器用EMC試験施設」が完成
令和元年	「富士工業技術支援センター」に「ふじのくにCNF研究開発センター」、「静岡大学CNFサテライトオフィス」、「CNFラボ（3室）」を開設
令和元年11月	「静岡県工業技術研究所」に「IoT推進ラボ」を開設
令和2年	遠隔技術相談システムを整備
令和3年11月	「IoT推進ラボ」のサテライトラボを「浜松工業技術支援センター」、「沼津工業技術支援センター」に開設
令和4年6月	「富士工業技術支援センター」に「富士市CNF連携拠点」を設置
令和5年1月	「デジタルものづくり相談窓口」を開設
令和5年9月	「浜松工業技術支援センター」に「デジタルものづくりセンター」を開設

（2）工業技術研究所全体の事業概要

地域産業に最も近い技術支援機関として、研究開発、依頼試験・設備使用、技術相談・人材育成、技術情報の提供、産学官連携の促進や周辺地域の公設試験研究機関との連携強化等を通じて、ものづくりを行う県内中小企業の技術開発や課題解決を支援している。

特に、地域に根ざした産業や県の産業振興施策である先端産業育成プロジェクトをはじめとする集積を目指す産業分野の技術（光・照明・音響、製紙、食品・バイオテクノロジー、環境エネルギー、生活製品）、工業全般の基礎となる技術（材料、機械・電子、情報通信）において、地域産業の振興、新たな産業の創出等の基礎となる技術力の向上を支援している。

近年は、人口減少等による急速な人手不足の顕在化や車の電動化・自動運転等の著しい技術革新への対応等、中小企業を取り巻く環境は大きく変化しており、企業ニーズに対応した支援を推進するため、生産性向上を目的としたIoTに関する研究支援、電気自動車を始めとする次世代自動車に関する研究支援、新たな素材として期待されるセルロースナノファイバー（CNF）に関する研究支援、ものづくりをデジタルデータに基づいて一貫して行うデジタルものづくりに関する研究支援について、工業技術研究所の各機関が連携した取組を進めている。

県内産業界を一体的に技術支援できる組織体制とするため、平成19年度には沼津・富士・静岡・浜松工業技術センターを統合し、工業技術研究所（静岡市）とし、その下に沼津・富士・浜松工業技術支援センターを配置した。

平成24年9月、工業技術研究所全体で、文部科学省から科研費応募資格を有する研究機関としての指定を受けた。平成26年に「ものづくり産業支援窓口」、平成28年「デザイン相談窓口」、令和5年「デジタルものづくり相談窓口」を開設し、県内企業の製品開発等の支援に取り組んでいる。

これらにより、企業が取り組む研究開発、製品設計・生産、品質管理における技術課題の解決のための支援が強化された。

○ 主要事業

ア 研究開発

新成長戦略研究、経常研究、共同研究、受託研究を行い、地域産業の技術基盤の強化や先端技術の開発による産業支援を行う。

イ 依頼試験・設備使用

地域企業の新製品開発や性能評価のため、依頼試験や試験機器・施設等を開放し、技術支援を行う。

ウ 技術相談・人材育成

中小企業の技術相談や各種研修会・講習会を開催し、地域産業の技術力向上に努める。

エ 技術情報の提供

研究所のウェブサイトやメールマガジン、センターニュース、また各種技術講演会を通じて、地域の中小企業を中心に、製造技術や製品開発に必要な技術情報を提供する。

オ 産学官連携の促進

静岡県工業技術研究所産学官連携推進コーディネータを配置し、地域企業の技術情報の共有化や研究開発の支援等を通じた地域企業、大学、支援機関との連携強化を図っている。

他県の公設試験研究機関との連携を密にするため、関東経済産業局管内の首都圏公設試験研究機関連携体（首都圏テクノナレッジ・フリーウェイ（TKF））や、中部経済産業局管内の中部イノベネットに参画し、情報交換や広域連携による域内企業の支援強化を進めている。

カ 先端産業創出プロジェクト等の推進

先端産業創出プロジェクト（ファルマバレープロジェクト、フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト、フォトンバレープロジェクト、次世代自動車プロジェクト、ふじのくにCNFプロジェクト、マリンオープンイノベーションプロジェクト等）による産業イノベーション拠点の形成事業や中小企業の成長分野への進出を支援する新成長産業戦略的育成事業と相互に連携することにより、新技術・新製品の開発を促進する。

（3）工業技術研究所及び各工業技術支援センターの状況

ア 工業技術研究所（静岡市）

（ア）地域の概要

当研究所が所在する中部地域は、静岡市を中心に江戸時代から発達した漆塗等の技術と豊富な森林資源を活かし、家具、雛具等の伝統工芸産業が集積している。また、焼津市や静岡市清水区を中心に豊富な農水産物を原料とした全国有数の食品加工産業が集積しており、かつお・まぐろ類缶詰、冷凍水産食品等は、日本一の生産量を誇る。さらに大手医薬品製造者の生産拠点や車載光学機器を中心とした化成品産業が集積している。

中部地域は、先端産業創出プロジェクトにおける「フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト」の中心的な地域であり、平成20年度から始まった「総合食品学講座」の人材育成事業においては、公益財団法人静岡県産業振興財団や静岡県公立大学法人静岡県立大学と共に参画し、既存産業の高度化や新たな食品関連産業の創出に努めている。

また当所が開発した中小食品製造業者向け食品廃棄物のエネルギー利用を目的とした小型メタン発酵プラントについては、その事業化を目指した「静岡県小型メタン発酵プラント事

業化推進協議会」が、13の食品加工・製造企業やプラントメーカー等により設立され、食品工場等にパイロットプラントを設置し、有効性や採算性について実証試験を実施した。

(イ) 事業の概要

当研究所では、平成19年度に企画調整機能を集約化して企画調整部を設け、研究所と各支援センターが一体となって県内産業界を総合的に支援できるよう、研究所全体の企画調整、機器整備等の計画策定、技術情報の集約・一元的な発信、産学官の連携強化等を行っている。

金属材料科・化学材料科・機械電子科では、県内中小製造業に対し、構造材料・表面加工技術の向上、ものづくり技術の高付加価値化や製品設計の高度化等共通基盤技術を支援しており、企業との共同研究にも積極的に取り組んでいる。

その中で、金属材料科は次世代自動車向け軽量素材の利用促進を目的に、半熔融成形や樹脂へのめっきに関する技術開発に取り組み、化学材料科では、脱炭素化の取り組みとして、樹脂と植物性素材C N Fの複合材料の開発に取り組んでいる。

機械電子科では、I o T、A Iに関する研究を中心に企業の生産性向上に向けた支援に取り組むとともに、企業の最新のI o T関連機器を展示する「静岡県I o T推進ラボ」を所内に開設し、講習会や実証実験等を通し、企業にI o Tによる生産工程の見える化等を体験する機会を提供している。

照明音響科では、県中部地域に集積する車載光学機器産業を中心とした照明関連産業の振興を図るため、シミュレーションや精密形状測定、配光測定等を活用し、設計、生産、評価と一貫した支援に取り組んでいる。これまでに、自動運転に必要なコミュニケーションライティングシステム用樹脂レンズの金型製造を可能とするための超精密な加工技術の開発に成功している。また、所有機器のうち「配光測定装置」は、一般照明用と自動車のヘッドランプ用の2種類に加えて微小光源用を整備しており、全国的にもこれらの設備を揃えている公設試験研究機関は当所だけであり、県内外の企業の新たな製品開発を支援している。

食品科は、県中部地域に集積している食品産業の振興を図るため、地域資源（お茶、海藻等）や未利用食材の利活用に関する研究や人材育成を行い、「フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト」推進の一翼を担っている。令和元年度からは、支援の対象となる技術分野を化粧品・化成品分野へも拡大した。また、令和7年4月に開始された「静岡ウェルネスプロジェクト」の一環として「未利用食材活用トライアル拠点」を開設し、未利用食材を活用した新商品開発の支援を開始した。

環境エネルギー科では、排水処理技術やバイオマスを利用したエネルギー回収技術等の研究や支援業務を行っている。平成26～28年度に実施した新成長戦略研究「分散型エネルギー社会に貢献する小型メタン発酵プラントの開発」で試作した小型プラントについて、県内食品・製造企業における実証試験を実施し、普及に向けてデータを情報公開している。また、県単独研究「好気性グラニュールを利用した省スペース型高濃度窒素排水処理装置の開発」において、高負荷排水にも対応したコンパクトな新たな処理装置を開発した。

ユニバーサルデザイン科では、ユニバーサルデザイン製品・福祉用具・医療機器等の県内関連産業を支援している。人口減少・少子・高齢社会が求める新たな価値の発見と魅力の創造に向けて、人間特性評価・U X・U I等の研究に取り組んでいる。またデザインに関する相談やデザイナーとのマッチング等の支援にも取り組んでいる。

工芸科では、家具・住宅等県内の生活関連産業を支援している。県産材の需要拡大につながる木製品の付加価値向上や、快適な生活空間の創造に向けて有害物質の評価、木製家具等の強度・耐久性試験等の研究に取り組んでいる。

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

(ア) 地域の概要

当センターが所在する県東部地域は、戦前海軍工廠に納める精密ネジを作る企業があった。戦後多くのネジ製造企業が独立し、現在では自動車関連の部品製造企業となっている。芝浦機械(株)や(株)リコーといった大企業が存在することから、精密加工を行う企業、プリンター部品を製造する企業も多い。

また、医薬品・医療用機器製造業も集積しており、地域の企業に対する医療用機器分野への参入を支援する取組も行われている。

県では、平成14年9月に開院した県立静岡がんセンターを核とした医療産業から健康産業まで広がる富士山麓先端健康産業集積(ファルマバレー)プロジェクトを推進しており、平成15年4月に、その中核的な支援機関であるファルマバレーセンターが開設された。当初より、当センターでは、年間7回程度開催するネットワーク会議にキーメンバーとして参加している。なお、令和3年度からは、コロナ禍を機にオンライン会議も取り入れて開催されている。

また、平成21年度からは医用機器等開発テーマ実現化会議へ委員を派遣し、この会議を経て令和元年度は「富士山麓から医療機器開発へ」ふじのくに医療機器産業活性化推進事業支援コーディネータとして活動した。

なお、ファルマバレープロジェクトは、①平成23年12月に東部地域12市町が内閣府より地域活性化総合特区「ふじのくに先端医療総合特区」として指定を受け、平成25年7月には文部科学省等補助事業「地域イノベーション戦略支援プログラム(国際競争力強化地域)」に採択、②平成28年9月、県立静岡がんセンター至近に医療健康産業研究開発センターの開設、③平成29年8月に(一財)ふじのくに医療城下町推進機構として設立された財団の公益財団法人化(平成31年4月)の動きを受け、ますます活動は加速化している。あわせて、令和元年12月に締結した本県と山梨県との医療健康産業政策の連携協定により、積極的な情報交換を進めている。

(イ) 事業の概要

当センターは、県東部地域の中小企業の技術力の強化・向上の支援、地域産業界全体の技術振興を目的として設置された試験研究機関である。バイオ科及び機械電子科の2科を設け、酵母等の発酵技術、ものづくりの基盤となる機械・電子技術により地域産業を支援するとともに、医療福祉分野等の試験研究や技術支援を通じてファルマバレープロジェクト等の東部地域の新産業育成に貢献している。

バイオ科は、工業技術研究所で唯一のバイオテクノロジー担当部門として、東部地域にとどまらず県下全域を対象としている。平成27年度から平成29年度まで県の5研究所と関係産業界が協働して行った新成長戦略研究「食の都しずおかの微生物を用いた新しい発酵食品ビジネスの創出」でしずおか有用微生物ライブラリーを構築した。本研究のなかで、発泡性日本

酒やオリジナルビールの開発といった新しい取り組みに成功し、このライブラリーを活かした新たな発酵ビジネスの創出に貢献した。これにより、本県の地域資源等から得た有用微生物によって構築されたライブラリーの微生物株の県内企業への分譲が進んでいる。さらに、令和2年度から令和4年度まで水産・海洋技術研究所が中核研究機関となった新成長戦略研究「マリンバイオ産業を振興するための海洋由来微生物を活用した新たな食品開発」において、県内クラフトビールメーカーとの共同研究により、海洋由来乳酸菌と酵母を用いたサワービールの商品化を果たした。本研究で得られた海洋由来微生物株については、一般財団法人マリンオープンイノベーション機構（MAOI機構）がライブラリー化により企業への供給体制を構築し、当センターはMAOI機構と連携して県内企業の事業化を支援している。令和3年度から5年度にかけて、本県の清酒造りに適した独自の清酒醸造用種麴の開発フローを構築し、オリジナル清酒用種麴を開発を行った。

機械電子科では、平成28年度から平成30年度にかけて、戦略的基盤技術高度化支援事業（経済産業省）（現 成長型中小企業等研究開発支援事業）として「骨端用プレートの高品質・低コスト成形加工技術の開発」を進めた。これに加え、平成30年度から令和2年度にかけて、新成長戦略研究「次世代型インプラントの型鍛造成形を可能にする設計支援技術の開発」を実施し、整形外科用インプラントの型鍛造成形を実現させる上で必要不可欠な、金型や成形条件探索等に費やす開発費を削減させることが出来る独自の設計支援技術を開発した。これをもとに関連企業からの技術相談や受託研究の相談も増加しており、ファルマバレープロジェクトに関連した課題に引き続き取り組んでいる。また、令和3年11月にはセンター内に「静岡県IoT推進ラボ サテライト沼津」を開設し、企業のIoT導入の支援を行っている。

センター業務の実施に当たっては、中小企業のニーズを把握することを第一に、企業や商工団体の訪問、企業との意見交換の場の確保等、地元の声の把握に鋭意努めながら進めている。

ウ 富士工業技術支援センター（富士市）

（ア）地域の概要

当センターが所在する富土地域（富士市、富士宮市）は、大消費地である首都圏に近く、富士山麓の豊富な水資源を基に製紙産業が栄え、これを中核とする機械産業が発達し、世界に類を見ない製紙関連産業の技術集積地を形成している。さらに昨今の電子技術を応用した家電、輸送用機械工業等の進出により一大工業地帯を形成し、加えて、富士山麓の清涼な環境の基に特異な精密工業や医療機器・医薬品関連産業の進出による先端産業地帯としても発展している。

しかし、最近の経済のグローバル化に伴い、地域の企業も他社との統合・合併で生き残りを図る等大きな構造変化が進んでいる。例えば、製紙関連では、富土地域に集中する中小のトイレットペーパー等を製造する家庭紙製造業は、大手製紙メーカーがこの分野にも参入してきており、生産量は横ばいであるが、競争が厳しくなってきた。また、印刷用紙等では、ペーパーレス化の進展等により、生産量が大きく減少しているため、大手製紙メーカーの大幅な事業の見直し・集約が進むと共に、中小企業も印刷用紙に代わる新たな製

品製造に取り組む必要に迫られている。

一方、製紙関連以外の製造業では、富士宮市を中心とする医療機器産業が比較的順調な伸びを保っているが、富土地域の輸送用機械や電気機械及び化学工業関連等は、米国の関税政策等先行き不透明で、厳しい状況にある。その中で、最近では製紙関連の他、樹脂成形、化成品等様々な分野で新材料として注目されているセルロースナノファイバー（CNF）を利用した新製品開発が進んでおり、富士市がプラットフォームを組織してCNFの研究開発や製品化の支援を進めている。脱炭素社会への移行とデジタルシフトが加速しており、多くの企業がCNF活用やAI・IoTの活用に関心を寄せている。

（イ）事業の概要

当センターは、企業による新成長分野への進出や新規事業分野の開拓にかかる研究開発の他、関連支援機関と連携して、入口（ニーズ、市場性の調査）から製品開発、出口（販売）までの一貫支援に努めている。また、地域企業の既存技術の高度化、高付加価値新商品の開発を、主に技術面から支援している。

製紙科では、古紙を利用した再生紙を主力とした技術開発を行っている。古紙原料不足や古紙価格の高騰等から付加価値の高い紙や特殊紙の開発に取り組み始めた企業も増えているため、紙リサイクル技術の推進、紙質・製品評価技術の確立、機能性付与技術の開発に重点を置いている。これまでの古紙利用に関する研究では、トイレトペーパーがほぐれにくくなっている要因や、かさが要求される製品でより低密度化できる処方を探り、工場の実状に併せた改善策を提案し、品質改善に結び付けた。また、古紙原料不足に対応した課題として廃棄衣料を製紙原料として活用する技術開発も行い、遠州織物から紙を製造するモデルケースとして業界に提案した。その他古紙の品質低下が原因と考えられる様々な技術相談が寄せられていることから、今後も古紙利用技術の開発は重点的に取り組んでいく。

CNF科は県内企業によるCNF関連産業への参入を支援する中核的役割を担うとともに、次世代の新素材として注目されているCNFの技術窓口として、ふじのくにCNFプロジェクト推進事業を遂行している。令和4年度は、新成長戦略研究政策課題指定枠「プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂リサイクル性の評価」を実施し、脱炭素・資源循環社会実現に向けた自動車部材の軽量化素材として、リサイクルが困難なガラス繊維等を使用した樹脂の代替とするため、CNFを30%配合したポリプロピレン樹脂を成形し、CNF複合樹脂のリサイクル性を検証した。令和4～6年度に実施したリファイナーを用いたCNF製造技術開発の共同研究では、従来よりも非常に低いコストでCNFを製造する技術開発に成功した。また、産学官連携体制強化のため、静岡大学CNFサテライトオフィス及び企業と共同研究を行うCNFラボで構成される「ふじのくにCNF研究開発センター」を運営し、事業化や製品化を推進している。

機械電子科は、当地域における製造品出荷額の上位を占めている機械、電気・電子産業の支援を目的に設置され、通常の業務に加え、センター協議会活動を通して中小企業の技術力の向上に寄与している。令和5年度から地場産業である製紙業界でAI活用を促進するために、古紙の種類をAIで判別する技術開発や生産現場でAIを活用して品質向上を

図る研究開発を行っている。

今後も産業支援機関や大学と連携して地域企業の新たな成長分野への参入を支援するとともに、センターの持つ技術力を活かして現場ニーズに対応した技術支援を推進していく。

エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）

（ア）地域の概要

当センターが所在する西部地域は、トヨタ、ホンダ、スズキ、ヤマハ発動機等の世界的輸送機械メーカー発祥の地であり、自動車や二輪車及び船外機関連企業が集積している。また、ヤマハ、河合楽器製作所、ローランド等の世界的楽器メーカー、浜松ホトニクス等の光関連メーカー及び電気機器関連企業等が立地している。また、古くから綿織物の国内有数の産地として盛況を極めてきた。

西部地域は、本県経済を主導するリーディング産業を育成する先端産業創出プロジェクトのなかで、フォトンバレープロジェクトの中心となっている。産学官金の連携による地域企業の新製品開発や新たな市場への進出を支援するとともに、「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」や「光産業創成大学院大学」が実施する人材育成等を支援する等、光・電子技術産業の集積化を推進している。

また、成長産業である次世代自動車、医療機器、航空機産業分野等への地域企業の参入を促進し、海外成長力の取り込み等による地域産業の活性化を図っている。次世代自動車産業については、県内企業で参入を目指した取組が活発化しており、当センターでも関連する試験機器を整備する等、支援体制の強化に努めている。また、部品部材の開発を支援するため、電気自動車（日産リーフ）の2010年型と2017年型の分解展示を令和元年1月より開始した。

さらに、地域に集積する技術力と地元の素材を結び付けた高付加価値の製品づくりとブランド力の強化、県内外への情報発信や販路開拓を支援する等、繊維をはじめとする地場産業の振興を図っている。

（イ）事業の概要

当センターでは、地域企業の要望に応じた製品試験、不良品の原因調査等の相談に応じるとともに、企業と共同で新製品の研究開発に取り組んでいる。

このため、県内中小企業のものづくりをデジタルデータに基づいて企画・設計から成型加工、測定・評価まで一貫して支援する「デジタルものづくりセンター」を令和5年度に開設した。

CAE等の試し使いができる「シミュレーショントライアルルーム」、サンプル等の紹介、企業連携による打合せができる「コワーキング・展示スペース」、CAE等の各種ソフトウエアに関するセミナー、ワークショップを行う「セミナールーム」を新たに設け、既存・新設機器を活用し、製品開発課程における中小企業のデジタル技術のボトムアップを推進する。

光科では、光半導体レーザーや超短パルスレーザーを高度に利用する技術や透過光計測により応力に起因する複屈折率分布を可視化する装置の開発を行い、ものづくりの品質検査等、新たな応用分野の研究開発を進めている。また、平成29年度より参画してきた内閣府革新的研究開発推進プログラム（ImPACT）の中で開発した新型レーザーの試用プラットフォームを、

用途開発に利用していただくよう無料開放している。令和3年度から実施した次世代自動車への搭載を目的とした「コミュニケーションライティングシステム」のためのレンズ開発を行う新成長戦略研究課題（リーダーは本所）では、光学素子の設計・評価及び樹脂成形用金型転写技術の検討を担当し、その成果の社会実装に取り組んでいる。

また、光産業創成大学院大学による中核人材育成講座に、派遣講師として協力する等、レーザー応用技術に携わる人材の育成を支援している。

機械電子科では、精密測定や品質工学に関する技術相談を通じ、モノづくりを支援している他、機械技術に関連する研究会の活動をサポートしている。また、アルミニウム部品の熱変形やウルトラハイテン材のひずみ等を三次元的に計測、評価する技術の開発を進め、地域企業の製品設計、開発力の強化に取り組んでいる。

令和3年11月にはセンター内に「静岡県IoT推進ラボ サテライト浜松」を開設し、企業のIoT導入の事例を紹介するとともに、令和5年度は熱構造解析用CAE装置や形状最適化ソフトウェアを導入するとともに、令和6年度には3Dスキャナを導入して、前述のデジタルものづくりを支援する。

一方、電磁波測定、電磁波環境計測関連機器及び耐振耐候試験機等、所有機器を用いて製品の信頼性向上を図り、安全で安心できる電子機器の開発や技術向上を支援している。また、EMC試験における測定の不確かさの算出・管理による測定値の信頼性及び測定技術の向上に向けた研究を通じ、事業者の製品開発を支援している。なお、電子制御化が進む自動車関連産業の需要に対応するための車載機器用EMC試験施設を平成30年度に整備し、県内事業者等による次世代自動車開発関連分野への参入を支援している。

材料科では、次世代自動車に用いられる軽量難加工材に関わる加工・評価やめっき技術を応用した表面処理技術の開発に取り組んでいる。また解析技術の向上・体系化を図り、材料の成分分析、構造解析、強度試験、破損・欠陥解析等の各種試験や技術相談に迅速かつ的確に対応することにより、企業の新製品開発・技術開発を支援している。

加えて新たな造形方法として注目されている金属3Dプリンタを令和5年度に導入した。従来の成形、加工技術では作成が困難な形状の部品を造形できるため、デジタルものづくりによる試作やより付加価値の高い製品の開発への支援を目指している。

繊維高分子材料科では、令和2年度より県の新成長戦略研究として、次世代自動車等への採用が期待される軽量高強度材料「炭素繊維強化複合材（CFRP）」の、大量生産に対応した高効率成形技術の確立を目指している。また、当センターが保有する織物サンプルデータベース、電子ジャカード織機等を活用して、コーデュロイやゆかた等の新製品開発を行う地域企業の技術支援を行っている。

（４）工業技術研究所及び各工業技術支援センターの施設の概要

ア 工業技術研究所（静岡市）

- （ア）敷地面積 23,157㎡
- （イ）建築面積 7,659㎡
- （ウ）延床面積 13,091㎡
 - 管理棟 鉄筋コンクリート4階建 2,250㎡（管理部門）
 - 研究棟 鉄筋コンクリート4階建 4,130㎡（研究部門）

○研修棟	鉄筋コンクリート平屋建	2 7 0 m ²	(講習・研修施設)
○実験棟	鉄骨平屋建	2, 7 1 9 m ²	(実験施設)
○開放棟	鉄筋コンクリート3階建	1, 6 8 0 m ²	(開放試験・共同研究施設等)
○資料館	鉄筋コンクリート2階建	4 6 0 m ²	
○付属棟		1, 5 8 2 m ²	(設備棟・薬品庫等)

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

(ア) 敷地面積	1 9, 1 3 9 m ²		
(イ) 建築面積	3, 8 9 2 m ²		
(ウ) 延床面積	6, 2 1 9 m ²		
○管理・研究・開放棟	鉄筋コンクリート3階建	4, 3 8 4 m ²	(管理・研究部門、開放試験)
○実験棟	鉄筋コンクリート平屋建	6 4 8 m ²	(実験施設)
○付属棟		3 0 5 m ²	(廃水処理施設等)
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	8 8 2 m ²	

ウ 富士工業技術支援センター(富士市)

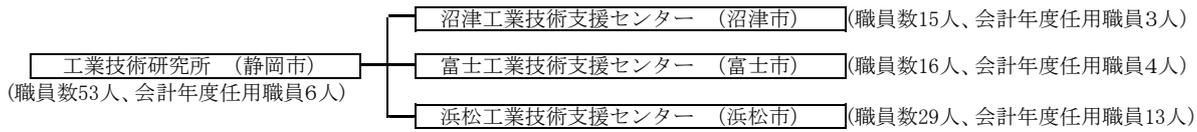
(ア) 敷地面積	2 0, 0 7 5 m ²		
(イ) 建築面積	4, 4 3 3 m ²		
(ウ) 延床面積	8, 8 0 1 m ²		
○管理・研究・開放棟	鉄筋コンクリート3階建	5, 3 4 6 m ²	(管理・研究部門、開放試験)
○実験棟	鉄筋コンクリート3階建	2, 4 1 4 m ²	(実験施設)
○付属施設		1 6 5 m ²	(車庫・駐輪場等)
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	8 7 6 m ²	

エ 浜松工業技術支援センター(浜松市)

(ア) 敷地面積	2 8, 2 3 8 m ²		
(イ) 建築面積	5, 7 9 2 m ²		
(ウ) 延床面積	1 1, 1 4 2 m ²		
○管理研究棟	鉄筋コンクリート4階建	5, 0 2 3 m ²	(管理・研究部門)
○開放棟	鉄筋コンクリート2階建	1, 2 7 6 m ²	(開放試験・共同研究・講習研修施設)
○実験棟	鉄筋コンクリート2階建	3, 3 0 9 m ²	(実験施設)
○付属棟		1 2 8 m ²	(排水処理施設・薬品庫等)
○車載機器EMCテストサイト	鉄骨平屋建	5 3 1 m ²	(実験施設)
○インキュベーションセンター	鉄骨平屋建	8 7 5 m ²	

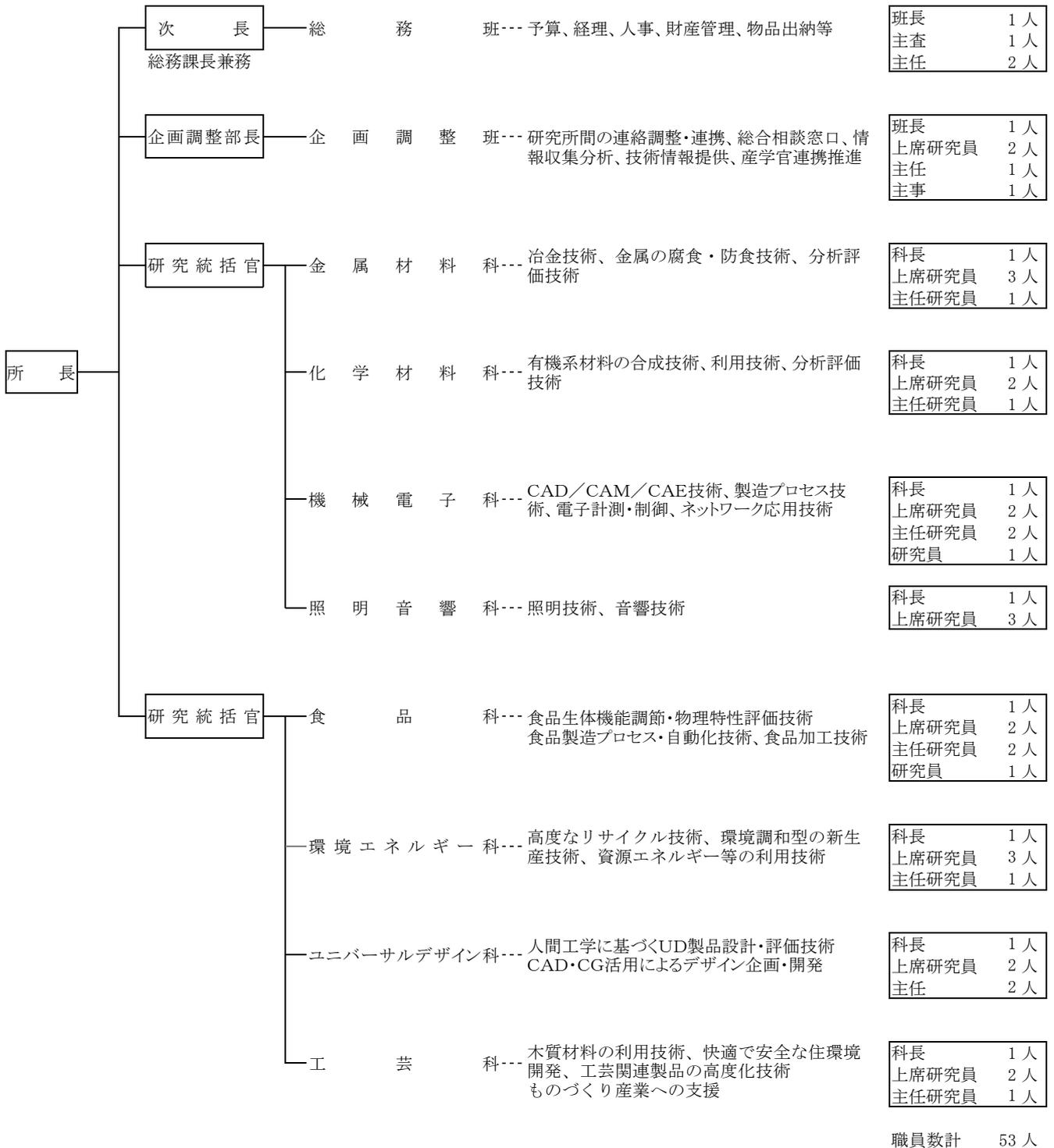
(4) 組織図

令和6年4月1日現在の工業技術研究所の組織及び業務分担は、次のとおりである。
職員総数は事務職員9人、技術職員94人、暫定再任用職員10人、会計年度任用職員26人の計139人である。



ア 工業技術研究所（静岡市）

職員数は事務職員4人、技術職員46人、暫定再任用職員3人、会計年度任用職員6人の計59人である。

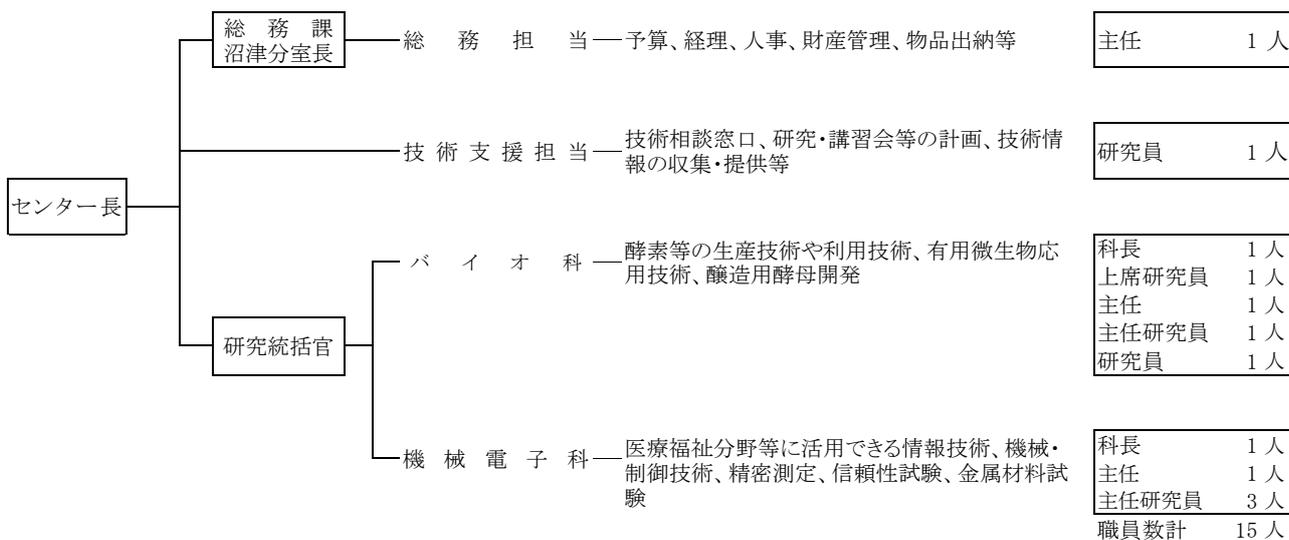


(その他会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	6人

イ 沼津工業技術支援センター(沼津市)

職員数は事務職員1人、技術職員11人、再任用職員3人及び会計年度任用職員3人の計18人である。

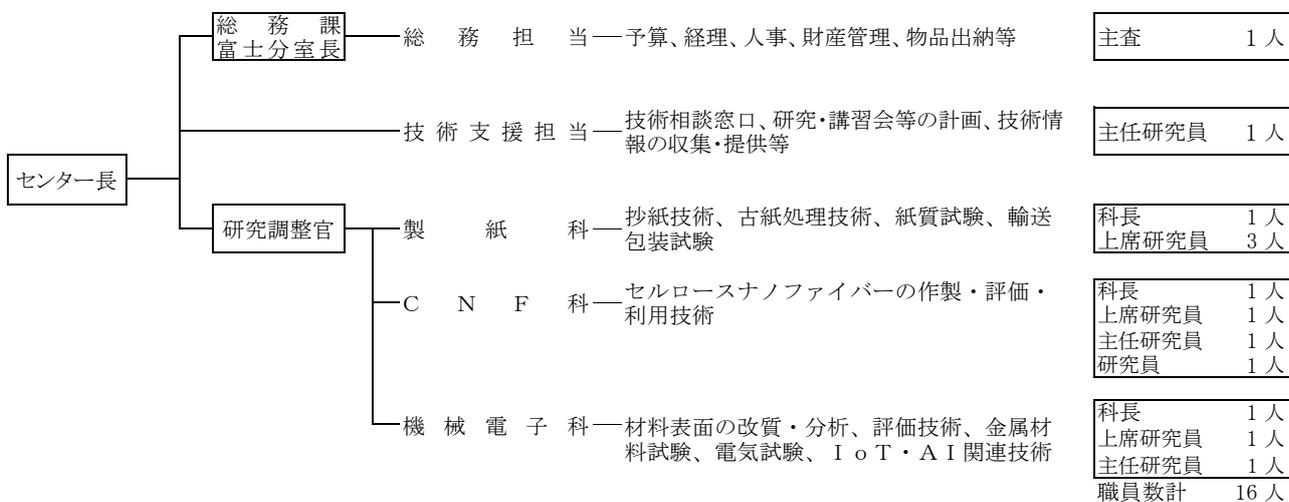


(その他会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	3人

ウ 富士工業技術支援センター(富士市)

職員数は事務職員2人、技術職員14人、会計年度任用職員4人の計20人である。

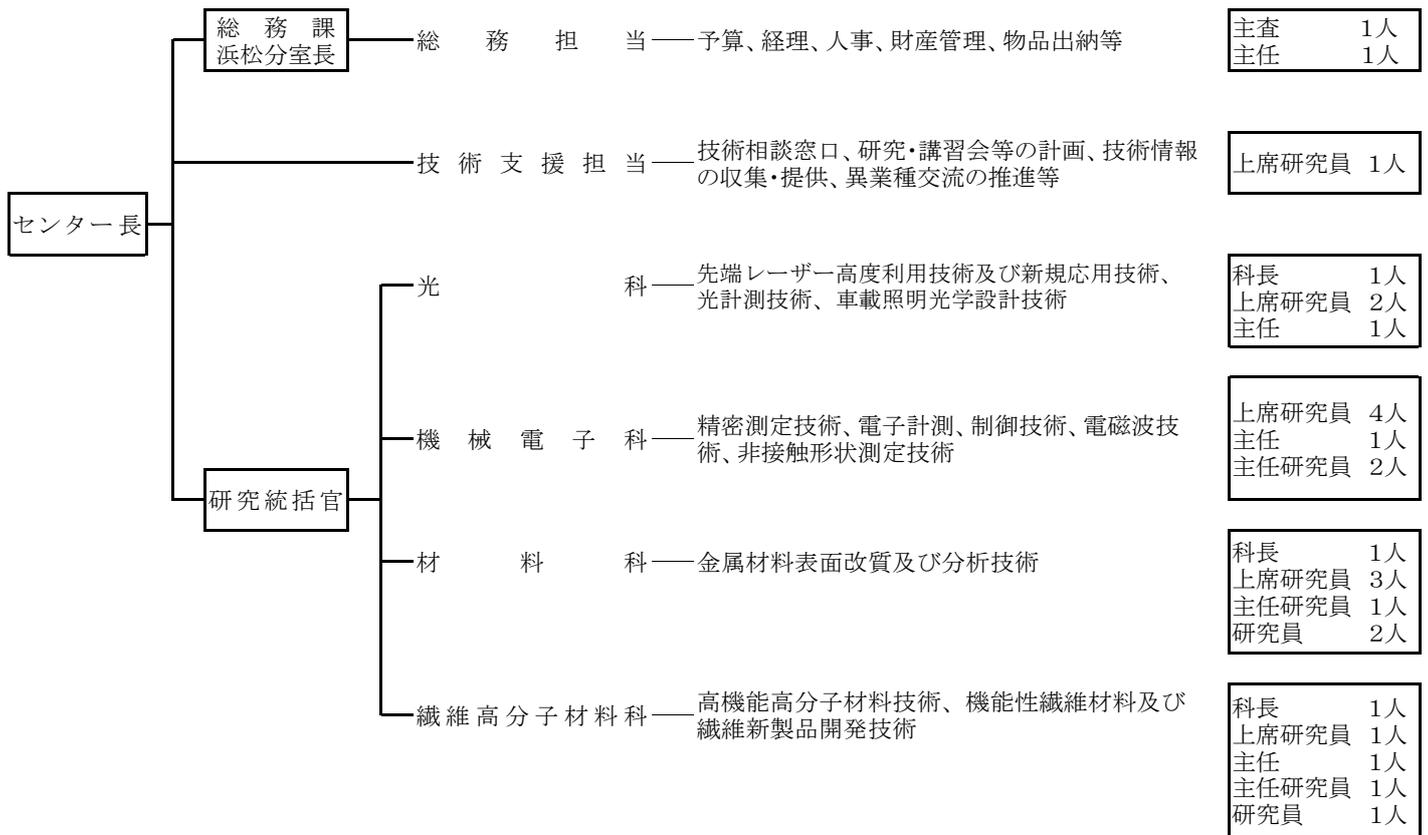


(その他会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	4人

エ 浜松工業技術支援センター（浜松市）

職員数は事務職員 2 人、技術職員 23 人、暫定再任用職員 4 人、会計年度任用職員 13 人の計 42 人である。



職員数計 29人

(その他会計年度任用職員等)

職名	人数
会計年度任用職員	13人

(5) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの職員

ア 工業技術研究所

部課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員	部課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
所長		1		化学材料科		4	
次長兼総務課長	1			機械電子科		6	1
企画調整部長		1		照明音響科		4	1
研究統括官		2		食品科		6	
総務課	3	1		環境エネルギー科		5	
企画調整部	2	3	3	ユニバーサルデザイン科		5	
金属材料科		5		工芸科		4	1
				計	6	47	6

職員名簿

組織	職名	氏名	組織	職名	氏名
所長		櫻川 智史		科長	木野 直樹
総務課	次長兼課長	宮本 三生	照明音響科	上席研究員	豊田 敏裕
	班長(事)	櫻田 幸子		上席研究員	竹居 翼
	主査(事)	執行 賀名子		上席研究員	柳原 亘
	主任(事)	藪 哲洋		会計年度任用職員	1名
	主任(技)	一瀬 将平		研究統括官	油上 保
企画調整部	部長	本多 正計	食品科	科長	渡瀬 隆也
	班長	小松 剛		上席研究員	松野 正幸
	上席研究員	浅沼 俊倫		上席研究員	山本 佳奈恵
	上席研究員	志田 英士		主任研究員	長房 秀幸
	主任(事)	佐野 芳浩		主任研究員	石橋 佳奈
	主事(事)	伊藤 春香		研究員	堀池 隼雄
	会計年度任用職員	3名		環境エネルギー科	科長
研究統括官	赤堀 篤	上席研究員	岡本 哲志		
金属材料科	科長	岩澤 秀	上席研究員		室伏 敬太
	上席研究員	吉岡 正行	上席研究員		菊池 圭祐
	上席研究員	鈴木 洋光	主任研究員	井口 大輔	
	上席研究員	田中 宏樹	ユニバーサルデザイン科	科長	長澤 正
	主任研究員	磯部 佑太		上席研究員	易 強
化学材料科	科長	矢嶋 雅		上席研究員	及川 貴康
	上席研究員	結城 茜		主任(技)	多々良 哲也
	上席研究員	田中 翔悟	主任(技)	深谷 謙一	
	主任研究員	野澤 遼	工芸科	科長	大竹 正寿
機械電子科	科長	山下 清光		上席研究員	村松 重緒
	上席研究員	望月 紀寿		上席研究員	船井 孝
	上席研究員	鈴木 悠介		主任研究員	前田 研司
	主任研究員	岩崎 清斗		会計年度任用職員	1名
	主任研究員	横井 功毅		(事)は事務職員、(技)及びその他は技術職員 (会計年度任用職員を除く)	
	研究員	久保田 大介			
会計年度任用職員	1名				

イ 沼津工業技術支援センター

課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
センター長		1	
研究統括官		1	
分室長	1		
総務担当	1		1
技術支援担当		1	
バイオ		5	
機械電子		5	2
計	2	13	3

職員名簿

組 織	職名	氏 名	組 織	職名	氏 名
センター長		飯野 修	機械電子科	科 長	望月 建治
研究統括官		鬼久保 郁雄		主 任	増田 康利
総務課分室長 (事)		山島 茂樹		主任研究員	稲葉 彩乃
総務担当	主 任 (事)	杉本 和子		主任研究員	是永 宗祐
	会計年度任用職員	1名		主任研究員	木村 光平
技術支援担当	主任研究員	黒瀬 智英子	会計年度任用職員	2名	
バイオ科	科 長	飯塚 千佳世	(事)は事務職員、その他は技術職員(会計年度任用職員を除く)		
	上席研究員	袴田 雅俊			
	主 任	杉本 芳邦			
	主任研究員	鈴木 雅博			
	研究員	新村 駿介			

ウ 富士工業技術支援センター

課科スタッフ	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
センター長		1	
研究調整官		1	
分室長	1		
総務担当	1		1
技術支援担当		1	
製紙		4	3
CNF		4	
機械電子		3	
計	2	14	4

職員名簿

組 織	職名	氏 名	組 織	職名	氏 名
センター長		田中 伸佳	CNF科	科 長	山下 晶平
研究調整官		深沢 博之		上席研究員	渡邊 雅之
総務課分室長 (事)		清水 俊秀		主任研究員	山崎 利樹
総務担当	主 査(事)	勝山 祥光		研 究 員	小坏 慎太郎
	会計年度任用職員 1名				
技術支援担当	主任研究員	小泉 雄輔	機械電子科	科 長	増井 裕久
製紙科	科 長	田村 克浩		上席研究員	齊藤 和明
	上席研究員	齊藤 将人		主任研究員	井出 達樹
	上席研究員	伊藤 彰			
	上席研究員	河部 千香			
会計年度任用職員 3名					
(事)は事務職員、その他は技術職員(会計年度任用職員を除く)					

エ 浜松工業技術支援センター

課科	事務職員	技術職員	会計年度任用職員
センター長		1	
研究統括官		1	
分室長	1		
総務担当	2		1
技術支援担当		1	2
光		4	1
機械電子		7	2
材料		7	4
繊維高分子材料		5	3
合計	3	26	13

職員名簿

組 織	職名	氏 名	組 織	職名	氏 名
センター長		鈴木 敬明	機械電子科	主任研究員	山口 智之
研究統括官		伊藤 芳典		主任研究員	原口 卓也
総務課分室長(事)		小林 友就		会計年度任用職員	2名
総務担当	主 査(事)	内藤 由衣希	材料科	科 長	菅野 尚子
	主 任(事)	平嶋 高幸		上席研究員	高木 誠
	会計年度任用職員	1名		上席研究員	田光 伸也
技術支援担当	上席研究員	上野 貴康		上席研究員	植松 俊明
	会計年度任用職員	2名		主任研究員	望月 智文
光科	科 長	渥美 博安		研究員	柳原 茉由
	上席研究員	中野 雅晴		研究員	加用 敦也
	上席研究員	志智 亘		会計年度任用職員	4名
	主 任	植田 浩安		繊維高分子材料科	科 長
会計年度任用職員	1名	上席研究員			針幸 達也
機械電子科	上席研究員	山田 浩文	主 任		宮原 鐘一
	上席研究員	太田 幸宏	主任研究員		大木 結以
	上席研究員	長津 義之	研究員		速水 優妃
	上席研究員	大澤 洋文	会計年度任用職員	3名	
	主 任	三浦 清	(事)は事務職員、その他は技術職員(会計年度任用職員を除く)		

(6) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの決算

ア 工業技術研究所

(ア) 歳入

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 額	収入未済額	備 考
使用料・手数料	24,960	24,960 (証紙131,214,340)	0	
財 産 収 入	594,000	594,000	0	
諸 収 入	22,500,008	22,500,008	0	
計	23,118,968	23,118,968 (証紙131,214,340)	0	

(イ) 歳出 (人件費を除く)

(単位：円)

科 目	令 達 額	支 出 額	残 額	備 考
経営管理費	13,296,841	13,296,841	0	
経済産業費	225,664,945	212,758,395	12,960,550	
計	238,961,786	226,055,236	12,960,550	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	13,296,841 円
○経済産業費	経済産業費	1,513,065 円
	産業革新費	22,260,029 円
	商工業費	188,985,301 円

(ウ) 国庫補助等

(単位：円)

補助金等の名称	県 事 業 名	事業費
科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 (独立行政法人 日本学術振興会)	工業技術研究所試験研究費	1,430,000
研究成果最適展開支援プログラム (A-STEP) (国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST))	工業技術研究所研究機器等整備 事業費 (機器名：回転電極電気化学測 定システム)	1,531,000

イ 沼津工業技術支援センター

(ア) 歳入

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 額	収入未済額	不納欠損額	備 考
使用料・手数料	2,274,480	2,274,480 (証紙8,992,110)	0	0	
財 産 収 入	24,530	24,530	0	0	
諸 収 入	1,614,791	1,614,791	0	0	
計	3,913,801	3,913,801 (証紙8,992,110)	0	0	

(イ) 歳出 (人件費を除く)

(単位：円)

科 目	令 達 額	支 出 額	残 額	備 考
経営管理費	5,214,910	5,214,910	0	
くらし・環境費	1,029,820	1,029,820	0	
経済産業費	82,047,286	82,047,286	0	
計	88,292,016	88,292,016	0	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	5,214,910 円
○くらし・環境費	環境費	1,029,820 円
○経済産業費	経済産業費	756,047 円
	産業革新費	5,298,962 円
	商工業費	75,992,277 円

(ウ) 国庫補助等

該当なし

ウ 富士工業技術支援センター

(ア) 歳入

(単位：円)

科 目	調 定 額	収 入 額	収入未済額	備 考
使用料・手数料	1,594,130	1,594,130 (証紙 12,034,560)	0	
諸 収 入	2,540,468	2,540,468	0	
計	4,134,598	4,134,598 (証紙 12,034,560)	0	

(イ) 歳出 (人件費を除く)

(単位：円)

科 目	令 達 額	支 出 額	残 額	備 考
経営管理費	11,498,309	11,498,309	0	
経済産業費	112,962,045	112,962,045	0	
計	124,460,354	124,460,354	0	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	11,498,309 円
○経済産業費	経済産業費	1,504,897 円
	産業革新費	2,639,447 円
	商工業費	108,817,701 円

(ウ) 国庫補助等

(単位：円)

補助金等の名称	県 事 業 名	事業費
科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 (独立行政法人 日本学術振興会)	工業技術研究所試験研究費	759,850

エ 浜松工業技術支援センター

(ア) 歳入

(単位：円)

科目	調定額	収入額	収入未済額	備考
使用料・手数料	1,821,111	1,821,111 (証紙 70,857,490)	0	
財産収入	49,940	49,940	0	
諸収入	5,202,676	5,202,676	0	
計	7,073,727	7,073,727 (証紙 70,857,490)	0	

(イ) 歳出 (人件費を除く)

(単位：円)

科目	令達額	支出額	残額	備考
経営管理費	11,130,583	11,130,583	0	
経済産業費	301,549,149	301,549,149	0	
計	312,679,732	312,679,732	0	

歳出内訳

○経営管理費	経営管理費	11,130,583 円
○経済産業費	経済産業費	4,060,702 円
	産業革新費	47,154,190 円
	商工業費	250,334,257 円

(ウ) 国庫補助等

(単位：円)

補助金等の名称	県事業名	事業費
公設工業試験研究所等における機械設備拡充補助事業費 (公益財団法人 J K A)	工業技術研究所試験検査機器整備事業費 (機器名：油圧式万能試験機、促進耐候性試験機)	57,508,000 (38,338,666)
デジタル田園都市国家構想交付金 (デジタル実装タイプ)	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	2,196,573 (1,098,287)
科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 (独立行政法人日本学術振興会)	工業技術研究所試験研究費	3,380,000

()内の数字は、事業費のうちの補助額。

(7) 工業技術研究所及び各工業技術支援センターの主要購入機器設備（金額1,000千円以上）

品名	所属	購入金額 (千円)	事業名	区分
LC-TOFMS	本所	29,700,000	試験検査機器整備事業費	県単独
凍結真空乾燥装置	本所	9,823,000	試験検査機器整備事業費	県単独
位相差顕微鏡	本所	1,534,500	新成長戦略研究推進事業(未利用茶葉)	県単独
回転電極システム	本所	1,531,200	研究機器整備事業費	団体補助(A-STEP)
恒温恒湿器	沼津	1,306,250	新成長戦略研究推進費	県単独
恒温恒湿器	富士	5,016,000	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
油圧式万能材料試験機	浜松	24,200,000	公設工業試験研究所等における機械設備拡充補助事業費(公益財団法人JKA) 工業技術研究所試験検査機器整備事業費	団体補助(公益財団法人JKA)
促進耐候性試験機	浜松	33,308,000	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	団体補助(公益財団法人JKA)
キャス試験機	浜松	3,498,000	工業技術研究所試験検査機器整備事業費	県単独
多関節アーム型3Dスキャン	浜松	13,750,000	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	県単独
多関節アーム型3Dスキャン用回転テーブル	浜松	1,595,000	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	県単独
リバースエンジニアリングソフトウェア	浜松	1,265,000	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	県単独
3Dデータ変換ソフトウェア	浜松	1,199,000	EV・自動運転化等技術革新対応促進事業費	県単独
粉末軽量ユニット	浜松	1,256,200	新成長戦略研究推進事業費	県単独

2 事業実績

(1) 試験研究、調査及び指導事務

ア 研究開発

(ア) 研究課題

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの研究課題数

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
工業技術研究所	4	4	7	1	16	32
沼津工業技術 支援センター	1	1	2	0	3	7
富士工業技術 支援センター	0	3	4	0	1	8
浜松工業技術 支援センター	1	5	3	1	4	14
合計	6	13	16	2	24	61

(a) 工業技術研究所の研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
金属材料科	0	1	1	0	4	6
化学材料科	0	0	4	0	1	5
機械電子科	1	0	0	0	0	1
照明音響科	0	1	0	1	1	3
食品科	2	1	0	0	5	8
環境エネルギー科	0	1	2	0	3	6
ユニバーサルデザイン科	0	0	0	0	0	0
工芸科	1	0	0	0	2	3
合計	4	4	7	1	16	32

(b) 沼津工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
バイオ科	1	1	0	0	2	4
機械電子科	0	0	2	0	1	3
合計	1	1	2	0	3	7

(c) 富士工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略 研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
製紙科	0	2	0	0	1	3
CNF科	0	0	3	0	0	3
機械電子科	0	1	1	0	0	2
合計	0	3	4	0	1	8

(d) 浜松工業技術支援センターの研究課題の内訳

(単位:件)

	新成長 戦略研究	県単独 研究	一般共同 研究	受託研究		計
				競争的 資金による 研究	競争的 資金以外の 研究	
光科	0	1	0	1	1	3
機械電子科	0	1	1	0	1	3
材料科	1	1	0	0	2	4
繊維高分子材料科	0	2	2	0	0	4
合計	1	5	3	1	4	14

b 令和6年度研究課題名一覧
 (a) 工業技術研究所研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門署	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R4～	設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化	機械電子科	
新規	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	食品科	
新規	静岡県の海藻を用いた免疫バランスを制御する食品成分の探索	食品科	チャレンジ研究枠 (クラウドファンディング型研究)
新規	しずおか木製家具復興のための県産広葉樹活用技術の開発	工芸科	政策課題指定枠
県 単 独 研 究			
継続 R2～	セルロースナノファイバーによる香り成分の徐放機構の解明及び放散制御技術の開発	食品科	科学研究費助成事業(学振)
継続 R5～	半熔融成形法の高度化技術開発	金属材料科	
継続 R5～	音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価に関する研究	照明音響科	
継続 R5～	高結晶コーヒーかす活性炭への白金埋込による高耐久性燃料電池触媒の開発	環境エネルギー科	科学研究費助成事業(学振)
一 般 共 同 研 究			
継続 R4～	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	化学材料科	
継続 R5～	ポリプロピレン/セルロース繊維複合材射出成形品への高密着なめつき技術の開発	金属材料科	
継続 R5～	CNF複合樹脂を用いた発泡ブロー成形技術の開発	化学材料科	
継続 R5～	白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発	環境エネルギー科	A-STEP産学共同 (育成型)(JST)
継続 R5～	好気性グラニュールを利用した高濃度窒素排水処理装置の開発	環境エネルギー科	
新規	CNFを用いた低環境負荷型湿式摩擦材の実用化に向けた開発	化学材料科	
新規	加飾性を有するセルロースファイバー複合熱可塑性樹脂の開発	化学材料科	

新・継 開始年	課 題 名	担当部門署	備 考
受託研究（競争的資金による研究）			
新規	M P A技術を用いた新しい光パターンL E D照明の開発	照明音響科	A-SAP産学官金連携イノベーション推進事業
受託研究（競争的資金以外の研究）			
新規	S n、A gめっきの変色現象の解析に関する研究	金属材料科	
新規	鉄球鋳型の諸性質測定	金属材料科	
新規	レーザー溶接の溶接条件に関する研究	金属材料科	
新規	特殊鋳鉄及び改良アルミニウム合金の諸性質に関する研究	金属材料科	
新規	実暴露及び促進暴露試験した軟質PVC材料の深さ方向の定性把握	化学材料科	
新規	切削加工及び射出成形による次世代車載用光学部品の実用化に向けた技術開発	照明音響科	
新規	緑茶ブレンド焼酎の香気特性評価	食品科	
新規	陸上養殖アトランティックサーモンの血液に含まれる機能性成分の探索	食品科	
新規	超低周波磁界を利用したローコストな業務用急速冷凍庫の商品化に向けた食品等の評価に関する研究	食品科	
新規	おからの食用利用を行うための衛生調査ならびに、おからとマグロを用いた食品開発に向けた最適配合の研究	食品科	
新規	静岡県の水産物・水産加工食品の網羅的機能評価と有効機能の探求システムの開発	食品科	
新規	持続可能な地産地消型バイオガスエネルギー供給技術の開発と実証	環境エネルギー科	
新規	竹活性炭へのメソ細孔形成が燃料電池特性へ及ぼす影響	環境エネルギー科	
新規	燃料電池式アルコールセンサーに用いるMEAの発電特性評価	環境エネルギー科	
新規	バルカナイズドファイバー合板を使用した新規車両用床材の開発	工芸科	
新規	リサイクル用パルプ繊維を活用した左官材料の開発	工芸科	

注) 学振：(独)日本学術振興会、JST：(国研)科学技術振興機構、財団：(公財)静岡県産業振興財団

(b) 沼津工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
新規	酢酸イソアミルを高生産する吟醸酒用の新規静岡酵母の開発	バイオ科	チャレンジ研究枠 (クラウドファンディング型研究)
県 単 独 研 究			
新規	本県オリジナル酒造好適米「令和誉富士」を用いる清酒の醸造技術の確立	バイオ科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R5～	二軸引張試験を活用した成形シミュレーションの予測精度向上	機械電子科	新成長産業戦略的育成事業 産学官連携研究開発助成事業(財団)
新規	整形外科用インプラントの強度評価	機械電子科	先端産業創出プロジェクト革新技術創出補助金(静岡県)
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	令和6年静岡県清酒鑑評会における出品酒の成分分析とそれら成分が官能評価に与える影響に関する調査研究	バイオ科	
新規	自然界から分離したビール・ウイスキー用酵母の新しい活用法の検討研究	バイオ科	
新規	アルミニウム合金鋳造材のヤング率測定手法の検討	機械電子科	

注) 財団：(公財)静岡県産業振興財団

(c) 富士工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
県 単 独 研 究			
継続 R5～	A I を活用した古紙原料の判別に関する研究	機械電子科	
新規	古紙処理工程における効果の高い低密度化手法の追究	製紙科	
新規	廃棄衣料の古紙代替利用に関する研究	製紙科	
一 般 共 同 研 究			
継続 R4～	リファイナーを用いた低コストCNF製造技術の開発	CNF科	
継続 R4～	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	CNF科	
新規	加飾性を有するセルロースファイラー複合熱可塑性樹脂の開発	CNF科	
新規	説明可能なA Iを用いた牛群中での乳牛の序列を決定する要素の解明	機械電子科	科学研究費助成事業(学振)
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	新規古紙原料の探索	製紙科	

注) 学振：(独)日本学術振興会

(d) 浜松工業技術支援センター研究課題名一覧

新・継 開始年	課 題 名	担当部門	備 考
新 成 長 戦 略 研 究			
継続 R5～	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	材料科	
県 単 独 研 究			
継続 R5～	熱可塑性炭素繊維強化複合材料(CFRTP)の循環利用	繊維高分子材料科	
新規	コミュニケーションライティング技術の社会実装に向けた製品化支援－光学設計技術による照明性能を向上させる手法の開発－	光科	
新規	自動車用大型樹脂部品の熱変形シミュレーション手法の開発	機械電子科	
新規	材料特性データに基づく高張力鋼(ハイテン)板の成形工程削減	材料科	
新規	生分解性樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維における生分解抑制要因の解明	繊維高分子材料科	科学研究費助成事業(学振)
一 般 共 同 研 究			
継続 R5～	簡易的な電波到来方向推定システムの開発	機械電子科	
新規	加飾性を有するセルロースファイバー複合熱可塑性樹脂の開発	繊維高分子材料科	
新規	自動車シート用PET繊維の水平リサイクルの実現	繊維高分子材料科	
受託研究(競争的資金による研究)			
新規	MPA技術を用いた新しい光パターンLED照明の開発	光科	A-SAP産学官金連携イノベーション推進事業(浜松イノベーション推進機構)
受託研究(競争的資金以外の研究)			
新規	切削加工及び射出成形による次世代車載用光学部品の実用化に向けた技術開発	光科	
新規	鋳鉄材料組織が与える切削性への影響および切削性評価方法の確立	機械電子科	
新規	金属3Dプリンタ製アルミ材に対するエッチング効果の検証	材料科	
新規	鋳ぐるみ接合による鋳造材と積層造形材の接合性評価	材料科	

(イ) 外部研究員招へい事業

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計

	人 数	指導時間
工業技術研究所	9	4 4
沼津工業技術支援センター	3	1 1
富士工業技術支援センター	3	2 6
浜松工業技術支援センター	7	4 7
合計	2 2	1 2 8

b 外部研究員一覧

(a) 工業技術研究所外部研究員

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導時間
中部大学	音声情報処理	音声認識実験とその評価	4
(株)テクノベル	混練技術	混練機の基礎と最新動向、混練機の操作実習	8
(個人)	材料工学	高密着な樹脂めっき作製方法について	8
(株)ベンチャー・アカデミア	防食, 水質化学	電気化学試験による腐食評価	4
京都大学大学院	食品科学	乳化物の制御技術(安定性向上、長期保管等)について	4
敬愛技術士事務所	電気化学	回転電極法による活性評価手法について	7
新潟工科大学	生化学 微生物工学	水素、メタン、バイオマス利用について	5
産業技術総合研究所 柏センター 人間拡張研究センター	生活機能ロボティクス	福祉機器開発について	4
合計 9 人		合計 4 4 時間	

(b) 沼津工業技術支援センター外部研究員一覧

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導 時間
東京農業大学	醸造学	酒類製造技術及び関連試験手法について	3
東京農業大学	醸造学	製麹試験に関する指導	4
東北大学	金属材料	金属材料の加工、評価技術について	4
合計 3 人		合計 11 時間	

(c) 富士工業技術支援センター外部研究員一覧

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導 時間
沼津工業高等専門学校	振動工学、情報処理技術	機械学習、深層学習について	6
東京農工大大学院	紙パルプ科学、セルロース科学	低密度化のための製紙技術に関する研究内容について	16
一般社団法人静岡県紙パルプ技術協会	製紙工学	衣服の繊維を原料としたリサイクル紙の抄造、物性などについて	4
合計 3 人		合計 26 時間	

(d) 浜松工業技術支援センター外部研究員一覧

所 属	専 門	指導を受ける内容	指導 時間
EMCDOC	EMC関連	民生・車載機器のEMC測定 試験のノウハウに関する実施 指導	6
近畿大学	金属材料	金属3Dプリンタの造形と評 価方法	9
兵庫県立大学	金属粉末	金属粉末の作製と評価方法	9
千葉工業大学	電気化学	造形物の表面処理方法	6
国立研究開発法人 理化学研究所バイ オプラスチック研 究	高分子材料	高分子材料の成形加工技術	4
浜松地域CFRP 事業化研究会	高分子材料・複 合材	高分子材料の成形加工技術	9
静岡大学	塑性加工	試験データのシュミレーショ ン適用について	4
合計	7 人	合計	47 時間

(ウ) 特許等の登録及び出願

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計（令和7年3月31日現在）

	出願中件数	登録件数
工業技術研究所	5	18 ¹⁾
沼津工業技術支援センター	0	1
富士工業技術支援センター	0	3
浜松工業技術支援センター	1 ²⁾	14 ³⁾
合計	6	36

1) 意匠登録2件を含む。（内1件は外国での意匠登録）

2) 外国で特許出願中の1件。

3) 外国登録特許6件を含む。

b aのうち特許等出願、登録及び消滅件数

	出願件数	登録件数	消滅件数
工業技術研究所	0	1	1
沼津工業技術支援センター	0	0	0
富士工業技術支援センター	0	0	1
浜松工業技術支援センター	0	1	2
合計	0	2	4

イ 技術相談等

(ア) 技術相談

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの相談件数合計

	工業技術 研 究 所	沼津工業技術 支 援 セ ン タ ー	富士工業技術 支 援 セ ン タ ー	浜松工業技術 支 援 セ ン タ ー	合 計
技術相談	15,106	2,879	3,516	10,410	31,911
実地指導	1,643	303	286	554	2,786
合 計	16,749	3,182	3,802	10,964	34,697

(a) 工業技術研究所の相談件数

所 属	金属材料科	化学材料科	機械電子科	照明音響科
技術相談	2,001	2,175	886	1,717
実地指導	88	77	91	96
合 計	2,089	2,252	977	1,813
所 属	食品科	環境エネルギー科	エコパワ－サルテ－サ－イ科	工芸科
技術相談	3,257	1,990	1,324	1,547
実地指導	544	213	270	108
合 計	3,801	2,203	1,594	1,655
所 属	その他	合計		
技術相談	209	15,106		
実地指導	156	1,643		
合 計	365	16,749		

(b) 沼津工業技術支援センター相談件数

所 属	バイオ科	機械電子科	その他	合計
技術相談	830	1,975	74	2,879
実地指導	272	7	24	303
合 計	1,102	1,982	98	3,182

(c) 富士工業技術支援センター相談件数

所 属	製紙科	CNF科	機械電子科	その他
技術相談	2,106	471	856	83
実地指導	98	76	85	27
合 計	2,204	547	941	110
所 属	合計			
技術相談	3,516			
実地指導	286			
合 計	3,802			

(d) 浜松工業技術支援センター相談件数

所 属	光科	機械電子科	材料科	繊維高分子材料科
技術相談	663	2,986	4,440	2,256
実地指導	82	266	86	50
合 計	745	3,252	4,526	2,306
所 属	その他	合計		
技術相談	65	10,410		
実地指導	70	554		
合 計	135	10,964		

(イ) 依頼試験

a 依頼試験内訳（工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計）

		件数	金額(円)
1 分析	定性分析	1,572	10,766,740
	定量分析	615	2,507,110
2 工業用材料	材料強度試験	739	1,653,120
	長期性能試験	12,604	3,346,060
	特殊試験	624	4,416,340
3 木材工業	木材試験	10	72,500
	塗料試験	6	9,180
	製品試験	194	802,720
4 化学工業	金属表面処理試験	91	398,540
	プラスチック及びゴム試験	51	391,600
	微生物試験	9	57,690
	セラミックス試験	0	0
	熱勘定試験	0	0
5 機械金属工業	精密測定	131	403,980
	機械器具の検査及び試験	2	22,280
	金属試験	263	1,267,150
	電気試験	0	0
6 包装材料	包装材料試験	82	166,460
7 繊維工業	繊維材料試験	1	3,570
	編織試験	30	127,060
	染色試験	0	0
	整理仕上加工試験	0	0
8 製紙工業	原材料試験	54	441,420
	紙質試験	480	984,030
	製紙及び紙加工試験	3	32,760
9 加工	塗装加工	0	0
	木竹材加工	0	0
10 設計及び調整	機械等の設計及び調整	290	1,004,470
	繊維デザイン	32	86,720
	商業及び工業デザイン	15	59,000
11 写真及び複写		144	19,600
12 成績書の複本		37	18,130
合 計		18,079	29,058,230

(a) 工業技術研究所の依頼試験実績

		件数	金額(円)
1 分析	定性分析	460	5,236,030
	定量分析	463	1,491,340
2 工業用材料	材料強度試験	586	1,300,030
	長期性能試験	2,924	881,780
	特殊試験	456	3,354,020
3 木材工業	木材試験	10	72,500
	塗料試験	6	9,180
	製品試験	194	802,720
4 化学工業	金属表面処理試験	25	182,250
	プラスチック及びゴム試験	48	369,520
	微生物試験	0	0
	セラミックス試験	0	0
	熱勘定試験	0	0
5 機械金属工業	精密測定	8	9,120
	機械器具の検査及び試験	0	0
	金属試験	48	339,410
	電気試験	0	0
6 包装材料	包装材料試験	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	0	0
	編織試験	0	0
	染色試験	0	0
	整理仕上加工試験	0	0
8 製紙工業	原材料試験	0	0
	紙質試験	0	0
	製紙及び紙加工試験	0	0
9 加工	塗装加工	0	0
	木竹材加工	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	0	0
	繊維デザイン	0	0
	商業及び工業デザイン	15	59,000
11 写真及び複写		0	0
12 成績書の複本		0	0
合 計		5,243	14,106,900

(b) 沼津工業技術支援センターの依頼試験実績

		件数	金額(円)
1 分析	定性分析	60	404,000
	定量分析	43	39,990
2 工業用材料	材料強度試験	34	94,220
	長期性能試験	361	78,800
	特殊試験	39	319,870
3 木材工業	木材試験	0	0
	塗料試験	0	0
	製品試験	0	0
4 化学工業	金属表面処理試験	0	0
	プラスチック及びゴム試験	0	0
	微生物試験	9	57,690
	セラミックス試験	0	0
	熱勘定試験	0	0
5 機械金属工業	精密測定	123	394,860
	機械器具の検査及び試験	2	22,280
	金属試験	24	68,120
	電気試験	0	0
6 包装材料	包装材料試験	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	0	0
	編織試験	0	0
	染色試験	0	0
	整理仕上加工試験	0	0
8 製紙工業	原材料試験	0	0
	紙質試験	0	0
	製紙及び紙加工試験	0	0
9 加工	塗装加工	0	0
	木竹材加工	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	44	270,240
	繊維デザイン	0	0
	商業及び工業デザイン	0	0
11 写真及び複写		30	9,900
12 成績書の複本		0	0
合 計		769	1,759,970

(c) 富士工業技術支援センターの依頼試験実績

		件数	金額(円)
1 分析	定性分析	5	47,640
	定量分析	0	0
2 工業用材料	材料強度試験	6	8,340
	長期性能試験	591	193,840
	特殊試験	0	0
3 木材工業	木材試験	0	0
	塗料試験	0	0
	製品試験	0	0
4 化学工業	金属表面処理試験	0	0
	プラスチック及びゴム試験	0	0
	微生物試験	0	0
	セラミックス試験	0	0
	熱勘定試験	0	0
5 機械金属工業	精密測定	0	0
	機械器具の検査及び試験	0	0
	金属試験	0	0
	電気試験	0	0
6 包装材料	包装材料試験	82	166,460
7 繊維工業	繊維材料試験	0	0
	編織試験	0	0
	染色試験	0	0
	整理仕上加工試験	0	0
8 製紙工業	原材料試験	54	441,420
	紙質試験	480	984,030
	製紙及び紙加工試験	3	32,760
9 加工	塗装加工	0	0
	木竹材加工	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	0	0
	繊維デザイン	0	0
	商業及び工業デザイン	0	0
11 写真及び複写		0	0
12 成績書の複本		37	18,130
合 計		1,258	1,892,620

(d) 浜松工業技術支援センターの依頼試験実績

		件数	金額(円)
1 分析	定性分析	1,047	5,079,070
	定量分析	109	975,780
2 工業用材料	材料強度試験	113	250,530
	長期性能試験	8,728	2,191,640
	特殊試験	129	742,450
3 木材工業	木材試験	0	0
	塗料試験	0	0
	製品試験	0	0
4 化学工業	金属表面処理試験	66	216,290
	プラスチック及びゴム試験	3	22,080
	微生物試験	0	0
	セラミック試験	0	0
	熱勘定試験	0	0
5 機械金属工業	精密測定	0	0
	機械器具の検査及び試験	0	0
	金属試験	191	859,620
	電気試験	0	0
6 包装材料	包装材料試験	0	0
7 繊維工業	繊維材料試験	1	3,570
	編織試験	30	127,060
	染色試験	0	0
	整理仕上加工試験	0	0
8 製紙工業	原材料試験	0	0
	紙質試験	0	0
	製紙及び紙加工試験	0	0
9 加工	塗装加工	0	0
	木竹材加工	0	0
10 設計及び調製	機械等の設計及び調製	246	734,230
	繊維デザイン	32	86,720
	商業及び工業デザイン	0	0
11 写真及び複写		114	9,700
12 成績書の複本		0	0
合 計		10,809	11,298,740

(ウ) 機器使用等

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの機器使用等の実績合計

		時間数	金額(円)
機器使用		66,147	93,142,560
研修施設等使用	研修施設	344	539,900
	無響室	185	802,500
	電波暗室	324	2,397,600
	車載機器用EMS電波暗室	258	1,713,100
	車載機器用EMI電波暗室	295	1,897,650
	B C I 試験室 (シールドルーム)	175	844,000
	車載機器試験用シールドルーム	165	818,800
合 計	67,893	102,156,110	

(a) 工業技術研究所の機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		19,633	24,881,450
研修施設等使用	研修施設	55	66,000
	無響室	9	36,900
合 計	19,697	24,984,350	

(b) 沼津工業技術支援センターの機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		4,536	7,178,140
研修施設		36	54,000
合 計	4,572	7,232,140	

(c) 富士工業技術支援センターの機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		5,029	10,054,770
研修施設		204	326,100
合 計	5,233	10,380,870	

(d) 浜松工業技術支援センターの機器使用等の実績

		時間数	金額(円)
機器使用		36,949	51,028,200
研修施設等使用	研修施設	49	93,800
	無響室	176	765,600
	電波暗室	324	2,397,600
	車載機器用EMS電波暗室	258	1,713,100
	車載機器用EMI電波暗室	295	1,897,650
	B C I 試験室 (シールドルーム)	175	844,000
	車載機器試験用シールドルーム	165	818,800
合 計	38,391	59,558,750	

(エ) 研究会の育成

a 工業技術研究所（令和6年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
静岡県プレス技術研究会	昭和44年 6月	37社
静岡県食品技術研究会	昭和47年12月	105社・個人・団体
静岡県資源環境技術研究会	昭和44年11月	67社・人
静岡県プラスチック技術研究会	平成 2年 6月	32社・人
静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会	平成 7年 5月	32社
静岡県アウトドア技術研究会	令和 5年11月	23社

b 沼津工業技術支援センター（令和6年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
静岡県東部精密技術研究会	平成 2年 6月	35社・団体
静岡県バイオテクノロジー研究会	昭和59年 9月	26社・個人・団体

c 富士工業技術支援センター（令和6年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
静岡県紙バ技術研究フォーラム	昭和62年 9月	10社

d 浜松工業技術支援センター（令和6年7月31日現在）

研究会名	発足年月	会員数
浜松機械技術研究会	昭和39年12月	61社
表面技術研究会	昭和60年 8月	38社
浜松繊維加工技術研究会	平成 7年 7月	13社
浜松品質工学研究会	平成 9年 3月	15人
浜松EMC研究会	平成20年 6月	21社
浜松地域CFRP事業化研究会	平成21年 4月	45（社・個人）
はままつ超ハイテン研究会	平成28年 6月	15社

(オ) 研修生の受入れ

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

単位：人

	一般研修	就業体験研修	連携大学院
工業技術研究所	10	2	0
沼津工業技術支援センター	0	0	0
富士工業技術支援センター	0	0	0
浜松工業技術支援センター	2	0	0
合計	12	2	0

(a) 工業技術研究所の研修生

一般研修			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
食品科	水産物を用いた機能性食品素材の開発	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	県外大学 1人
食品科	・ ICP発光分光分析のための鹿肉、猪肉の湿式灰化 ・ GC/MSを用いた脂肪酸分析 ・ 鹿肉、猪肉のアミノ酸分析	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	県内大学 1人
工芸科	広葉樹の曲げ衝撃強度	令和6年5月12日～ 令和7年3月31日	県外大学院 1人
環境エネルギー科	触媒インクの混合方法、塗工方法及び電気化学測定技術の習得	令和6年7月16日～ 令和7年3月31日	県内大学 3人
食品科	水産資源を用いた食品加工技術の習得（凍結乾燥）	令和6年7月29日～ 令和6年8月29日	県外大学 1人
食品科	・ GC/MSを用いたにおいかぎ分析 ・ スープのアミノ酸分析	令和6年9月2日～ 令和7年2月28日	県内大学 1人
食品科	ICP分析における試料の前処理	令和6年9月27日～ 令和7年2月28日	県内大学 1人
食品科	水産資源を用いた食品加工技術の習得（凍結乾燥）	令和7年1月6日～ 令和7年3月31日	県外大学 1人

就業体験研修（インターンシップ）			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
金属材料科	各科業務内容の体験、所内見学、企業訪問同行	令和6年8月19日～ 令和6年8月23日	県内大学 1人
化学材料科			
食品科			
環境エネルギー科			
工芸科			
環境エネルギー科	県庁仕事スタディーツアー	令和6年11月1日	県外大学 1人
化学材料科			
連携大学院関係			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			

（b）浜松工業技術支援センターの研修生

一般研修			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
光科	レーザーパワーの測定	令和6年11月15日	県外公設試 1人
材料科	金属3Dプリンタ	令和6年12月12日	県外公設試 1人
就業体験研修（インターンシップ）			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			
連携大学院関係			
担当部門	研修項目	研修期間	研修生所属・氏名
受入れなし			

ウ 技術情報提供

(ア) 研究報告関係

研究成果事例集	協議会等で配布 展示会で配布 ホームページに掲載
工業技術研究所研究報告	Web上で公開

(イ) 研究発表会関係

研 究 発 表 会	工業技術研究所	開催年月日	R7. 3. 4
		演題数	37題
	沼津工業技術 支援センター	開催年月日	バイオ科は工技研と合同開催 機械電子科は富士と合同開催
		演題数	8題
	富士工業技術 支援センター	開催年月日	R7. 3. 7
		演題数	11題
	浜松工業技術 支援センター	開催年月日	R7. 3. 6
		演題数	26題

(a) 令和6年度静岡県工業技術研究所研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
ユニバーサルデザイン科の紹介	長澤 正
行動観察記録による製品の使いやすさ評価 ―アウトドア用品の1例―	易 強
デザインマッチング事業紹介	及川 貴康
デジタル機器活用によるデザイン支援 ―様々なプリンタを活用して制作物を創ろう―	多々良 哲也
環境エネルギー科の紹介	本間 信行
好気性グラニュールを利用した省スペース型排水処理装置の開発	岡本 哲志
メタン発酵試験装置の紹介	室伏 敬太
回転電極を用いた電気化学測定について	菊池 圭祐
GCによるバイオガス分析について	井口 大輔
工芸科の紹介 ―木材や家具の評価に欠かせない強度試験―	大竹 正寿
木材・木製品等の変色事例の紹介	村松 重緒
材料試験結果に基づく木材破壊基準の検討	船井 孝
バルカナイズドファイバー合板を使用した新規車両用床材の開発	前田 研司
機械電子科の紹介	山下 清光
RFIDタグによる倉庫の物品の管理 (Ⅱ)	望月 紀寿
生産プロセスシミュレータを活用した企業支援	鈴木 悠介
中小企業版デジタルツインの構築	岩崎 清斗
ゲームエンジンを活用した転倒検知AIモデルの開発	横井 功毅
点群データを使用したバーチャル工場モデルの作成	久保田 大介
化学材料科の紹介	矢嶋 雅
異材混入によるプラスチックの物性への影響	結城 茜
PP/セルロース複合材の混練温度による物性等の変化	田中 翔悟
耐候性試験した樹脂混和物の赤外分光イメージングを使用した形態解析	野澤 遼
照明音響科の紹介	木野 直樹
マイクロプリズムアレイによるピクトグラム投影技術の製品化	豊田 敏裕
高精度自由曲面測定機による光学部品の形状評価	柳原 亘
信号処理と音声認識技術を利用した音場評価	竹居 翼

テ ー マ 名	発 表 者
食品科の紹介	渡瀬 隆也
超低周波磁界を用いた急速冷凍庫での保存が食品に与える影響の評価	山本 佳奈恵
未利用海藻熱水抽出物のJ774.1細胞サイトカイン産生への影響	長房 秀幸
CNFと香り成分による香りの放散挙動変化	石橋 佳奈
未利用茶の殺菌・洗浄技術開発における衛生度評価	堀池 隼雄
金属材料科の紹介	岩澤 秀
不良解析における事例紹介	吉岡 正行
ポリプロピレン/セルロース繊維複合材へのめっき技術の開発	田中 宏樹
AC4CH合金の熱処理特性に与えるSnの影響	磯部 佑太
セルロースナノファイバーによる香り成分の徐放機構の解明及び放散制御技術の開発	石橋 佳奈

(b) 令和6年度沼津工業技術支援センター研究発表の実績

テ ー マ 名	発 表 者
バイオ科の紹介	飯塚 千佳世
自然界由来酵母の清酒醸造適性評価	袴田 雅俊
吟醸香豊かな食中酒向け新規静岡酵母の開発	鈴木 雅博
新しい静岡県オリジナル酒造好適米「令和誉富士」の原料米特性評価	新村 駿介
沼津工業技術支援センター機械電子科の紹介	望月 建治
赤外分光分析による分析事例と腐食促進試験装置の紹介	稲葉 彩乃
走査電子顕微鏡 (SEM) による観察・分析のポイント	是永 宗祐
アルミニウム合金鑄造材のヤング率測定手法の検討 ー弾性域が不明瞭な材料のヤング率をどう測るかー	木村 光平

(c) 令和6年度富士工業技術支援センター研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
CNF科の紹介 –ふじのくにCNF研究開発センターの取組について–	山下 晶平
遠州織物を利用したリサイクル紙の開発	伊藤 彰
富士工業技術支援センターCNF科の紹介 –ふじのくにCNF研究開発センターの取組について–	山下 晶平
リファイナーを用いた低コストCNF製造技術の開発	渡邊 雅之
自動二輪車向けセルロースファイラー複合樹脂の開発	山崎 利樹
富士工業技術支援センター製紙科の紹介	田村 克浩
古紙処理工程における効果の高い低密度化手法の追究（第1報）	齊藤 将人
廃棄繊維の古紙代替利用に関する研究	伊藤 彰
富士工業技術支援センター機械電子科の紹介	増井 裕久
AIを活用した古紙原料の判別に関する研究（Ⅱ）	齊藤 和明
画像解析による乳牛の個体識別方法の検討	井出 達樹

(d) 令和6年度浜松工業技術支援センター研究発表会の実績

テ ー マ 名	発表者
デジタルものづくりセンターの紹介	伊藤 芳典
金属3Dプリンタの活用と研究紹介	田光 伸也
アルミのバラを作るーX線CTによる形状取得、3D造形、形状評価ー	太田 幸宏
3Dスキャンとスキャンデータの活用	山口 智之
機械電子科の研究開発・技術支援への取り組み	伊藤 芳典
3Dスキャナを用いた非接触変位測定での測定位置による誤差の変化	長津 義之
車載電子機器に求められているレーダーパルス試験の概要と当センターでの対応状況	山田 浩文
簡易的な電波到来方向推定システムの開発	原口 卓也
繊維高分子材料科の研究開発・技術支援への取り組み	木野 浩成
海水中で分解速度を制御できる漁具用生分解性繊維の開発	大木 結以
モノの色の見え方と色の数値化、光との関係性ー分光測色計を用いた染色評価の事例ー	速水 優妃
熱可塑性炭素繊維強化複合材料（CFRTP）の循環利用	木野 浩成
光科の研究開発・技術支援への取り組み	渥美 博安
光学シミュレーションを用いたマイクロプリズムアレイの設計と製品応用ーラインパターン投影装置の高性能化事例ー	志智 亘
転写用樹脂を用いた光学部品微細凹部の形状評価	中野 雅晴
材料科の研究開発・技術支援への取り組み	菅野 尚子
パウダーベッド方式の金属3Dプリンタでの造形姿勢がアルミニウム合金の機械的特性に及ぼす影響	植松 俊明
パウダーベッド方式の金属3Dプリンタでの積層厚さがアルミニウム合金の緻密化と造形速度に及ぼす影響	望月 智文
金属3Dプリンタで造形した樹脂金型用ステンレス材料の表面性状評価	大澤 洋文
フーリエ変換赤外分光光度計を用いた樹脂等に付着した異物分析	柳原 茉由
成型シミュレーションの精度向上を目的とした高張力鋼板の材料特性データ取得ーバウシinger効果の測定ー	加用 敦也

(ウ) 研究所情報等の提供

刊行物名	発行部数 (部)	ホームページ 掲載
工業技術研究所各科紹介チラシ	—	○
沼津工業技術支援センターニュース	—	○
富士工業技術支援センター利用案内	—	○
浜松工業技術支援センターニュース	1,500	○
静岡県工業技術情報	—	○
静岡県工業技術研究所年報	—	○
静岡県工業技術研究所メールマガジン (2週間に1回発行)	31回	—

(エ) 研究所の事業広報等

見学の受入	工業技術研究所		230人
	沼津工業技術支援センター		116人
	富士工業技術支援センター		158人
	浜松工業技術支援センター		703人
「県民の日」 研究所 フェア 及び センター フェア	工業技術研究所	開催年月日	R6.8.2
		開催内容	<ul style="list-style-type: none"> ・技術教室 4コース、全8回 ・体験ツアー ・地震防災教室
	沼津工業技術 支援センター	開催年月日	R6.8.2
		開催内容	<ul style="list-style-type: none"> ・実験/工作 2コース、全4回
	富士工業技術 支援センター	開催年月日	R6.8.2
		開催内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり体験教室 2コース、全4回 ・施設見学ツアー
	浜松工業技術 支援センター	開催年月日	R6.8.2
		開催内容	<ul style="list-style-type: none"> ・親子ふれあい技術広場 3コース、全6回 ・見学/体験コーナー

(オ) 講習会等

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	実施回数	参加者数
工業技術研究所	29	528
沼津工業技術支援センター	4	114
富士工業技術支援センター	16	178
浜松工業技術支援センター	25	972
合計	74	1792

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6.4.22	UD・工芸研究会見学会	静岡デザイン専門学校	10	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会
R6.11.5		伊藤金属総業 明電システムソリューションズ 富士テクニカ宮津	11	
R6.5.22	静岡県アウトドア技術研究会見学会	エコウッド景観協同組合	8	静岡県アウトドア技術研究会
R6.6.17	食品技術研修会	札の辻クロスホール	41	静岡県食品技術研究会
R6.9.26		グランシップ	73	静岡県食品技術研究会、 静岡大学食品・生物産業創出拠点
R6.11.29		あざれあ	54	静岡県食品技術研究会
R6.7.2	ロボットアーム導入体験会	工業技術研究所	8	—
R6.7.2	UD・工芸研究会講習会	第1回 工業技術研究所	28	静岡県ユニバーサルデザイン・工芸研究会
R6.9.12		第2回 工業技術研究所	9	
R6.12.10		第3回 静岡県教育会館	19	
R7.2.13		第4回 工業技術研究所	14	
R6.7.5	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	工業技術研究所	10	静岡県IoT導入推進コンソーシアム
R6.9.13		浜松工業技術支援センター	10	
R6.10.11		沼津工業技術支援センター	5	
R6.8.27	RFID活用 基礎セミナー	工業技術研究所	10	—

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 9. 26～27	ナノセルロース・実習コース第1期（2024年度）	工業技術研究所	10	ナノセルロースジャパン 静岡大学、富士市
R6. 10. 9	表面粗さの規格/光学部品の最新形状評価セミナー	工業技術研究所	15	—
R6. 10. 10	静岡県アウトドア技術研究会ワークショップ	第2プロジェクト研究室	11	静岡県アウトドア技術研究会
R6. 10. 23	デジタル技術獲得講座（1次産業編）	工業技術研究所	7	学校法人静岡理工科大学
R6. 10. 25	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座成果発表会	工業技術研究所	10	静岡県IoT導入推進コンソーシアム
R7. 1. 21		浜松工業技術支援センター	14	
R7. 2. 13		沼津工業技術支援センター	5	
R6. 11. 26	IoTの最新動向セミナー	工業技術研究所	11	—
R6. 12. 6	金型表面技術と非接触測定データを活用したモノづくり事例	工業技術研究所	26	静岡県プレス技術研究会
R6. 12. 10	学習会「水素製造技術の最新動向」	工業技術研究所	21	静岡県資源環境技術研究会
R7. 1. 31	デジタル技術獲得講座（1次産業編）成果発表会	学校法人静岡理工科大学駅前キャンパス	5	学校法人静岡理工科大学
R7. 2. 18	環境技術研修会「AI・IoT技術研修会」	工業技術研究所	46	静岡県資源環境技術研究会
R7. 2. 25	3Dプリンターに関する講習会	工業技術研究所	15	—
R7. 2. 27	令和6年度 水処理技術セミナー	工業技術研究所	22	静岡県資源環境技術研究会
実施回数 29回			参加者数 528人	

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 4. 17	技術セミナー「エネルギー分散型X線分析装置（SEM-EDS）の基礎」	沼津工業技術支援センター	21	沼津センター協議会
R6. 6. 27	静岡県バイオテクノロジー研究会特別講演会	クーポール会館	24	静岡県バイオテクノロジー研究会
R6. 9. 3～4	酒造研修	もくせい会館	50	—
R7. 1. 24	静岡県バイオテクノロジー研究会企業発表会・講演会	あざれあ	19	静岡県バイオテクノロジー研究会
実施回数 4回			参加者数 114人	

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 5. 8	静岡県紙パ技術研究 フォーラム技術勉強 会	富士工業技術支援セ ンター	14	—
R6. 7. 16			第2回	
R6. 7. 31	第1回紙パルプ技術セミナー	富士工業技術支援セ ンター	39	富士センター協議会製紙部会
R6. 8. 21	TEMPPO酸化CNF製造 実習	富士工業技術支援セ ンター	6	—
R6. 9. 20	ロボット・AI活用セミナー	富士工業技術支援セ ンター	40	富士センター協議会機械電子部 会
R6. 9. 27	ナノセルロース・実習コース	富士工業技術支援セ ンター	11	富士市、静岡大学
R6. 12. 12			7	富士市
R7. 2. 19	多関節アーム型3Dスキャ ナ活用セミナー	富士工業技術支援セ ンター	22	富士センター協議会機械電子部 会
R7. 3. 11	CNF技術者研修	富士工業技術支援セ ンター	3	—
R7. 3. 12			1	
R7. 3. 13			4	
R7. 3. 14			4	
R7. 3. 18			3	
R7. 3. 25			1	
R7. 3. 26			5	
R7. 3. 27			1	
実施回数 16回			参加者数 178人	

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 4. 19	精密測定セミナー『フレッシュマンのための精密測定技術の基礎と画像測定機』	浜松工業技術支援センター	47	浜松センター協議会 浜松機械技術研究会
R6. 6. 3	金属3Dプリンタ活用セミナー7	浜松工業技術支援センター	74	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R6. 6. 13	熱流体解析ワークショップ～フレッシュマンのための熱流体解析の基礎とシミュレーション実習～	浜松工業技術支援センター	8	—
R6. 6. 18	フレッシュマンのための非破壊計測セミナー～X線CTの基礎と活用事例紹介～	浜松工業技術支援センター	20	浜松機械技術研究会
R6. 6. 20～21	金属3Dプリンタ活用ワークショップ(4)	浜松工業技術支援センター	7	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R6. 7. 5	電子機器の電磁妨害耐性(イミュニティ)試験規格の基礎と最新動向	浜松工業技術支援センター	31	浜松センター協議会 浜松EMC研究会
R6. 7. 18	SOLIDWORKSを使った強度シミュレーション基礎講座～構造解析の基礎と実習～	浜松工業技術支援センター	10	—
R6. 7. 31	デジタル化等促進在職者訓練「積層造形金属3Dプリンタ入門」	浜松工業技術支援センター	2	—
R6. 8. 27	リバーエンジニアリング体験ワークショップ～非接触3Dスキャナと点群データからの3Dモデリング～	浜松工業技術支援センター	12	浜松機械技術研究会 はままつ超ハイテン研究会
R6. 9. 25	金属3Dプリンタ活用セミナー8	浜松工業技術支援センター	66	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会
R6. 10. 1	多関節アーム型3Dスキャナ活用セミナー	浜松工業技術支援センター	29	—
R6. 10. 3	電磁ノイズ対策セミナー～ノイズトラブルの実態とその対策手法～	浜松工業技術支援センター	55	浜松センター協議会 浜松EMC研究会
R6. 10. 30	浜松地域CFRP事業化研究会技術講演会(2024)ー熱可塑性樹脂ROSの特徴とリサイクル性ー	浜松工業技術支援センター	34	はままつ超ハイテン研究会
R6. 10. 31	製造業を支えるレーザー微細加工技術	浜松工業技術支援センター	39	浜松市
R6. 11. 22	はままつ超ハイテン研究会講演会2024	静岡大学工学部	121	—
R6. 12. 3～4	MEET UP CHUBU×積層造形(金属3Dプリンタ活用セミナー9)	Co-startup Space & Community FUSE	147	経済産業省中部経済産業局 静岡県積層造形技術協議会
R6. 12. 11～12	金属3Dプリンタ活用ワークショップ(5)	浜松工業技術支援センター	4	浜松センター協議会 静岡県積層造形技術協議会

年月日	件名	会場	参加者数	共催等
R6. 12. 11	車載電子部品 E M C 試験勉強会	浜松工業技術支援センター	13	浜松 E M C 研究会
R6. 12. 13	光学設計ソフトウェア紹介体験セミナー	浜松工業技術支援センター	11	—
R6. 12. 18	プレス成形シミュレーションセミナー ～材料特性に関する講演及びAutoFormハンズオンワークショップ～	浜松工業技術支援センター	24	—
R7. 1. 20	金属 3 D プリント活用セミナー10	浜松工業技術支援センター	47	静岡県積層造形技術協議会
R7. 2. 4	フェライトコア、コイル、コンデンサー等を使った電源ノイズ対策	浜松工業技術支援センター	24	浜松センター協議会 浜松 E M C 研究会
R7. 2. 28	金属 3 D プリント活用セミナー11	浜松工業技術支援センター	70	静岡県積層造形技術協議会
R7. 3. 14	役立つ促進耐候性及び耐食性試験セミナー ～基礎知識から試験時に気をつけるポイントまで～	浜松工業技術支援センター	46	浜松センター協議会
R7. 3. 19	品質工学講演会	(Web)	31	浜松品質工学研究会
実施回数 25 回			参加者数 972 人	

(カ) 講師活動

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの合計

	活動回数	参加者数
工業技術研究所	22	887
沼津工業技術支援センター	12	871
富士工業技術支援センター	13	126
浜松工業技術支援センター	22	371
合計	69	2255

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	講習会等の名称	会場	参加者数	主催	講師氏名	
R6.7.5	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	工業技術研究所	10	静岡県IoT導入推進コンソーシアム	横井 功毅	
R6.7.19	(公社) 鋳造工学会軽合金研究部会シンポジウム	早稲田大学	90	(公社) 鋳造工学会	岩澤 秀	
R6.7.25	総合食品学講座	工業技術研究所	パイロットプラントの紹介&講義	(公財) 静岡県産業振興財団	渡瀬 隆也 松野 正幸 山本 佳奈恵 石橋 佳奈 長房 秀幸 堀池 隼雄	
R6.9.5			食品の劣化と保存のポイント、発酵の基礎		33	長房 秀幸 石橋 佳奈
R6.10.1			試作品作成実習		9	渡瀬 隆也 松野 正幸 山本 佳奈恵 石橋 佳奈 長房 秀幸 堀池 隼雄
R6.10.3			試作品作成実習		10	
R6.10.10			試作品評価実習		19	
R6.10.15			微生物実習I		16	
R6.10.17			微生物実習II		19	

年月日	講習会等の名称	会場	参加者数	主催	講師氏名
R6. 8. 20	鑄造カレッジ	機械振興会館	5	(一社) 日本鑄造協会	岩澤 秀
R6. 10. 4	(公社) 鑄造工学会若手技術討論会	(株) スギヤマ	35	(公社) 鑄造工学会	岩澤 秀 磯部 佑太
R6. 10. 10	静岡県アウトドア技術研究会ワークショップ	工業技術研究所	11	静岡県アウトドア技術研究	易 強
R6. 11. 1	Node-RED Con 2024 Osaka	グラングリーン大阪	45	さくらインターネット(株)	岩崎 清斗
R6. 11. 28	〈製造業DX〉AIとデジタルツインで「業務効率化」を目指せ! スマート生産革命	SHIP	26	(株)スカイディスク	岩崎 清斗
R6. 11. 28	技術講習	不二電子工業(株)	6	工業技術研究所	吉岡 正行
R6. 12. 16		朝日電装(株)	30		
R7. 1. 22		(株)アイエイアイ	29		
R6. 12. 12	静岡地域食材学B	静岡県立大学	41	静岡県立大学	長房 秀幸
R6. 12. 13	静岡県デジタル技術獲得講座 [物流編]	工業技術研究所	7	学校法人静岡理工科大学	久保田 大介
R7. 2. 1	Unreal Engine Meetup in Shizuoka Vol.1	(株)静岡新聞社	130	FutureSoftware	岩崎 清斗
R7. 2. 16	Scaniverse Japan Meetup in 掛川	大日本報徳社	262	Niantec Inc.	岩崎 清斗
R7. 2. 18	AI・IoT技術研修会 (令和6年度環境技術研修会)	工業技術研究所/ Web	34	静岡県資源環境技術研究会	岩崎 清斗
活動回数 22回			参加者数 887人		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6. 6. 18	G I 静岡スタートアップ交流会	ホテルグランヒルズ静岡	170	名古屋国税局	鈴木 雅博
R6. 6. 28	令和6年度第1回静岡県ガストロノミーツーリズム研究会	沼津市民文化センター	70	(一財) 静岡新食文化共創機構	鈴木 雅博
R6. 7. 20	南アルプス高山植物由来酵母とウイスキー&交流会	B-nest/静岡市産学交流センター	70	静岡大学	鈴木 雅博
R6. 9. 3~4	酒造研修	もくせい会館	50	沼津工業技術支援センター 静岡県酒造組合 静岡県杜氏研究会	鈴木 雅博 袴田 雅俊 新村 駿介
R6. 10. 11	わかりやすいIoTを用いた現場実装講座	沼津工業技術支援センター	3	静岡県IoT導入推進コンソーシアム	望月 建治
R6. 10. 13	南アルプスユネスコエコパーク登録10周年記念連続シンポジウム「南アルプスの水と酒造り」	レイアップ御幸町ビル	25	静岡大学	鈴木 雅博
R6. 11. 8	粋に愉しむ 日本酒ワールド 金曜	浜松アクトタワー	15	NHKカルチャー浜松教室	鈴木 雅博
R6. 11. 24	「G I 静岡」指定一周年記念 G I 静岡認定酒と地場食材とのペアリング	ホテルグランヒルズ静岡	100	静岡県酒造協同組合	袴田 雅俊
R6. 12. 7	静岡大学社会人リカレントセミナー	静岡大学静岡キャンパス	15	静岡大学	鈴木 雅博
R7. 2. 26	第9回静岡クラフトビールの会	沼津市大手町商店街振興組合「さんさんホール」	38	静岡クラフトビールの会	袴田 雅俊
R7. 3. 19	第29回杜氏セミナー	(Web)	300	(公財) 日本醸造協会	鈴木 雅博
R7. 3. 20	粋に愉しむ 日本酒ワールド 木曜	浜松アクトタワー8階	15	NHKカルチャー浜松教室	鈴木 雅博
活動回数 12回			参加者数 871人		

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6. 7. 16	静岡県紙パ技術研究フォーラム 技術勉強会	富士工業技術支援センター	17	静岡県紙パ技術研究フォーラム	齊藤 和明
R6. 8. 21	TEMPO酸化CNF製造実習	富士工業技術支援センター	6	富士工業技術支援センター	渡邊 雅之
R6. 9. 27	ナノセルロース・実習コース	富士工業技術支援センター	11	富士工業技術支援センター	山崎 利樹
R6. 12. 12 ～13			7		渡邊 雅之
R6. 11. 15	繊維学会紙パルプ研究委員会シンポジウム	東京大学農学部中島董一郎記念ホール	63	繊維学会紙パルプ研究委員会	齊藤 和明
R7. 3. 11	CNF技術者研修	富士工業技術支援センター	3	富士工業技術支援センター	小塚 慎太郎
R7. 3. 12			1		山崎 利樹
R7. 3. 13			4		渡邊 雅之 山崎 利樹
R7. 3. 14			4		渡邊 雅之 山崎 利樹
R7. 3. 18			3		渡邊 雅之 小塚 慎太郎
R7. 3. 25			1		小塚 慎太郎
R7. 3. 26			5		渡邊 雅之
R7. 3. 27			1		小塚 慎太郎
活動回数 13 回			参加者数 126 人		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6. 6. 3	金属 3 D プリンタ活用セミナー7	浜松工業技術支援センター	74	浜松工業技術支援センター	植松 俊明
R6. 6. 18	フレッシュマンのための非破壊計測セミナー	浜松工業技術支援センター	20	浜松工業技術支援センター	太田 幸宏
R6. 6. 20 ~ 21	金属 3 D プリンタ活用ワークショップ	浜松工業技術支援センター	(4)	浜松工業技術支援センター	菅野 尚子 田光 伸也 植松 俊明 望月 智文
R6. 6. 20 ~ 22			(5)		
R6. 7. 18	連携大学院制度による客員教授としての学生指導	静岡大学工学部	1	静岡大学工学部	中野 雅晴
R6. 7. 26			1		
R6. 10. 21			1		
R6. 11. 7			1		
R7. 1. 7			1		
R7. 1. 9			1		
R7. 1. 16			1		
R7. 1. 28			1		
R6. 8. 27	リバースエンジニアリング体験ワークショップ	浜松工業技術支援センター	12	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R6. 9. 13	I o T 大学連携講座	浜松工業技術支援センター	10	静岡県産業振興財団	太田 幸宏
R6. 10. 1	多関節アーム型 3 D スキャナ活用セミナー	浜松工業技術支援センター	29	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R6. 10. 16	プレス成形シミュレーションのための材料パラメータについて	浜松工業技術支援センター	20	はままつ超ハイテク研究会	長津 義之
R6. 10. 23 ~ 25	レーザー中核人材育成講座「レーザー加工実習 2 A, 2 B」	浜松工業技術支援センター	19	光産業創成大学院大学	渥美 博安 中野 雅晴 志智 亘 植田 浩安

年月日	講習会等の名称	会 場	参加者数	主 催	講師氏名
R6.12.4	デジタルものづくり研究会	浜松工業技術支援センター	30	経済産業省中部経済産業局 浜松工業技術支援センター 静岡県積層造形技術協議会	伊藤 芳典 田光 伸也
R6.12.18	プレス成形シミュレーションセミナー ～材料特性に関する講演及びAutoFormハンズオンワークショップ～	浜松工業技術支援センター	24	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R7.2.19	多関節アーム型3Dスキャナ活用セミナー@富士工業技術支援センター	富士工業技術支援センター	22	浜松工業技術支援センター	長津 義之
R7.3.14	耐候性試験及び耐食性試験セミナー	浜松工業技術支援センター	46	浜松工業技術支援センター	望月 智文
R7.3.14	役立つ促進耐候性及び耐食性試験セミナー ～基礎知識から試験時に気をつけるポイントまで～	浜松工業技術支援センター	46	浜松工業技術支援センター	木野 浩成
活動回数 22 回			参加者数 371 人		

(キ) 委員派遣

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	派遣回数	延べ派遣者数
工業技術研究所	5 6	5 6
沼津工業技術支援センター	2 8	3 3
富士工業技術支援センター	4 1	4 5
浜松工業技術支援センター	5 8	6 3
合計	1 8 3	1 9 7

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 4. 8	(公社) 鑄造工学会東海支部工場見学委員会	(Web)	(公社) 鑄造工学会東海支部	岩澤 秀
R6. 4. 12		シャインズ		
R6. 4. 22		(Web)		
R6. 5. 6				
R6. 6. 3				
R6. 8. 28		豊橋 (現地)	(公社) 鑄造工学会	
R6. 9. 17		(Web)		
R6. 10. 18		新東工業 (株)、浜北工業 (株)		
R6. 10. 29		リョービ (株)		
R7. 1. 22		(Web)		
R7. 3. 11				
R6. 5. 24	食品等開発助成事業及び化粧品等研究開発推進事業助成金に係る審査委員会	静岡県産業経済会館	(公財) 静岡県産業振興財団フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションセンター	油上 保
R7. 2. 26				
R6. 5. 31	海洋技術開発促進事業費補助金審査委員会	(Web)	新産業集積課	油上 保
R6. 6. 5	(公社) 鑄造工学会軽合金研究部会	(Web)	(公社) 鑄造工学会	岩澤 秀
R6. 12. 9				
R6. 6. 25	I S O国内委員会	(Web)	(一社) 日本規格協会	柳原 亘
R6. 11. 13				
R7. 2. 18				
R6. 6. 25	J I S素案作成委員会	(Web)	(一社) 日本規格協会	柳原 亘
R6. 9. 17				
R6. 11. 13				
R6. 12. 18				
R7. 2. 18				

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 7. 17	富士山麓先端健康産業集積プロジェクト推進事業 医療機器等開発可能性調査審査会	書面会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構	油上 保
R6. 10. 11				
R6. 7. 18	技能検定実技試験(塗装)補佐員	県立工科短期大学校	静岡県職業能力開発協会	村松 重緒
R6. 8. 9				船井 孝
R6. 8. 19				前田 研司
R6. 8. 27				村松 重緒
R6. 9. 5				前田 研司
R6. 9. 17				船井 孝
R6. 9. 25				前田 研司
R6. 10. 21				
R6. 11. 5				船井 孝
R6. 11. 14				村松 重緒
R6. 11. 26				
R6. 7. 23				研究調査委員会
R6. 12. 9				
R6. 12. 11				
R7. 3. 31				
R6. 10. 9	溶接コンクール	ポリテクセンター静岡	静岡県溶接工業協同組合	岩澤 秀
R7. 1. 15				
R6. 11. 5	令和7年度 第17回焼津水産ブランド認定評価審査会(専門審査員)	焼津商工会議所	焼津商工会議所 焼津水産ブランド事業協議会	渡瀬 隆也
R6. 11. 21	令和6年第1回授賞選考委員会	(Web)	(公社) 日本食品科学工学会	渡瀬 隆也
R6. 11. 26	D2Cセミナー等開催業務委託に係る企画提案審査委員会	(Web)	地域産業課	油上 保
R6. 12. 19	静岡県創エネ・蓄エネ技術開発推進事業費補助金検討委員会	(Web)	エネルギー政策課	油上 保

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 12. 25	核心的製品試作委託審査会	書面会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構	油上 保
R7. 2. 28	(公社) 鋳造工学会東海支部理事会	(Web)	(公社) 鋳造工学会	岩澤 秀
R7. 3. 12	マリンオープンイノベーション事業化促進事業費補助金審査委員会	県庁	新産業集積課	油上 保
R7. 3. 13	海洋技術開発促進事業費補助金審査委員会	(Web)	新産業集積課	油上 保
R7. 3. 16	溶接技術競技大会	ポリテクセンター静岡	静岡県溶接工業協同組合	岩澤 秀
R7. 3. 19		工業技術研究所		
R7. 3. 25		工業技術研究所		
R7. 3. 26		ポリテクセンター静岡		
R7. 3. 21	総合食品学講座 事業推進委員会	静岡県産業経済会館	(公財) 静岡県産業振興財団フーズヘルスケアオープンイノベーションセンター	渡瀬 隆也
派遣回数 56 回			派遣人数 (延べ) 56 人	

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 4. 2	令和6年静岡県清酒鑑評会表彰式	ホテルグランヒルズ静岡	静岡県酒造組合 沼津工業技術支援センター	飯野 修 杉本 芳邦 鈴木 雅博
R6. 5. 15	令和6年度富士山麓産業支援ネットワーク会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター	黒瀬 智英子
R6. 7. 17		(Web)		
R6. 9. 18		(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター		
R6. 11. 20		(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター		
R7. 1. 15		(公財) ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレー センター		
R7. 3. 11		(Web)		
R6. 6. 17	静岡大学全学教育科目講義科目「地域と生活の科学」講義	静岡大学静岡キャンパス	静岡大学大学教育センター	鈴木 雅博
R6. 7. 3	令和6年度静岡県誉富士普及推進協議会幹事会	県庁	静岡県誉富士普及推進協議会	飯野 修
R6. 8. 5	静岡県創業者育成施設複数室使用承認に係るヒアリング	沼津工業技術支援センター	産業イノベーション推進課	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
R6. 9. 8	生物工学会大会審査員	東京工業大学大岡山キャンパス	日本生物工学会	鈴木 雅博
R6. 9. 10	ぬまづ技能マイスター及びぬまづITマイスター認定審査会	沼津商工会議所	沼津商工会議所	飯野 修
R6. 9. 24	静岡県科学技術振興表彰選考委員会	(Web)	商工振興課	飯野 修
R6. 10. 3	静岡県創業者育成施設複数室使用承認に係るヒアリング	沼津工業技術支援センター	産業イノベーション推進課	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
R6. 10. 6	全国高等専門学校 ロボットコンテスト2024 東海北陸地区大会 審査員	プラサ ヴェルデ	全国高等専門学校連合会、NHK、NHKエンタープライズ	飯野 修
R6. 11. 7	静岡県科学技術振興表彰・静岡県経営革新優秀賞 公益財団法人静岡県産業振興財団理事長表彰 合同表彰式	静岡県庁	静岡県、公益財団法人静岡県産業振興財団	飯野 修
R6. 11. 15	静岡県創業者育成施設入居審査委員会	静岡県庁	産業イノベーション推進課	飯野 修

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 11. 15	静岡大学全学教育科目「発酵とサステナブルな地域社会」	静岡大学静岡キャンパス	静岡大学	鈴木 雅博
R6. 11. 22	沼津工業高等専門学校運営諮問会議	(独行)国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校	(独行)国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校	飯野 修
R6. 11. 25	ぬまづ技能マイスター及びぬまづITマイスター認定式	沼津リバーサイドホテル	沼津商工会議所	飯野 修
R7. 2. 13	全国市販酒類調査	名古屋国税局	名古屋国税局	鈴木 雅博
R7. 3. 11	杜氏研究会持ち寄り新酒研究会	萬惣屋	静岡県杜氏研究会	鈴木 雅博 新村 駿介
R7. 3. 12	愛知県新酒品評会	あいち産業科学技術総合センター	愛知県酒造組合	鈴木 雅博
R7. 3. 13	岐阜県新酒鑑評会	岐阜県食品科学研究所	岐阜県酒造組合	鈴木 雅博
R7. 3. 14	三重県新酒品評会	三重県工業研究所	三重県酒造組合	袴田 雅俊
R7. 3. 19	ふじのくに先端医療総合特区地域協議会	(Web)	ふじのくに先端医療総合特区地域協議会	飯野 修
R7. 3. 19	名古屋国税局新酒品質評価会	名古屋国税局	名古屋国税局	鈴木 雅博
R7. 3. 25	名古屋国税局ビールワークショップ	名古屋国税局	名古屋国税局	鈴木 雅博
派遣回数 28回			派遣人数 (延べ)	33人

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名	
R6. 4. 22	紙パルプ試験規格委員会	第116回	(Web)	紙パルプ技術協会	齊藤 将人
R6. 6. 28		第117回	銀座区民館		
R6. 7. 30		第118回	銀座区民館		
R6. 9. 27		第119回	銀座区民館		
R6. 11. 6		第120回	銀座区民館		
R6. 12. 23		第121回	銀座区民館		
R7. 2. 17		第122回	(Web)		
R7. 3. 31		第123回	銀座区民館		
R6. 5. 8	富士地域再生家庭紙利用促進協議会	富士市消防防災庁舎	富士地域再生家庭紙利用促進協議会	田中 伸佳	
R6. 5. 15	令和6年度第1回富士山麓産業支援ネットワーク会議	(公財) ふじのくに医療城下町推進機構	ファルマバレーセンター	小泉 雄輔	
R6. 5. 15	令和6年度理事会	ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R6. 8. 21					
R6. 12. 10					
R7. 3. 13					
R6. 5. 16	紙パルプ技術協会木材科学委員会	第233回	(Web)	紙パルプ技術協会	田中 伸佳
R6. 7. 22		第234回			
R6. 9. 11		第235回			
R6. 12. 6		第236回			
R7. 3. 4		第237回			
R6. 5. 28	令和6年度通常総会	ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙業協会	田中 伸佳	
R6. 6. 10		富士市新環境クリーンセンター	岳南地域地下水利用対策協議会		
R6. 6. 11	第77回定時総会	ホテルグランド富士	(一社) 静岡県紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R6. 6. 17	富士ブランド推進会議	富士商工会議所	富士商工会議所	田中 伸佳	
R6. 8. 9					

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名	
R6. 6. 20	機能紙研究会理事会 機能紙研究会企画・編集委員会 機能紙研究会総会・発表会・見学会	岡山国際交流センター	特定非営利活動法人機能紙研究会	田中 伸佳	
R6. 11. 20		タワーホール船堀		齊藤 将人	
R6. 11. 21				田中 伸佳 齊藤 将人	
R6. 6. 25～26	第71回紙パルプ研究発表会 優秀発表賞審査	東京大学	紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R6. 7. 4～17	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会編 集委員会	第1回	(書面開催)	(一社) 静岡県紙 パルプ技術協会	田中 伸佳 田村 克浩
R6. 11. 25～1 2. 10		第2回			
R7. 2. 20～28		第3回			
R6. 8. 29	富士市立博物館協議会	富士山かぐや姫ミュージアム	富士市立博物館	田中 伸佳	
R6. 9. 2	富士市C N F 関連産業推進 懇話会	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R7. 1. 20					
R6. 10. 15	富士市工業振興会議	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R6. 11. 15	紙業振興大会	ホテルグランド富士	静岡県紙業振興協 議会	田中 伸佳	
R6. 11. 27	富士市発明くふう展表彰式	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R6. 12. 17	富士市産業経済問題懇話会	富士商工会議所	富士商工会議所	田中 伸佳	
R7. 1. 8	富士市C N F ブランド認定 審査会	富士市役所	富士市	田中 伸佳	
R7. 3. 4	紙パルプ技術協会木材科学 委員会	(Web)	紙パルプ技術協会	田中 伸佳	
R7. 3. 19	ふじのくに先端医療総合特 区地域協議会	(Web)	ふじのくに先端医 療総合特区地域協 議会	田中 伸佳	
派遣回数 41回			派遣人数 (延べ) 45人		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	委員会等の名称		会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 4. 5	A-SAPプロジェクト検討会		(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R6. 4. 5	A-SAP採択審査会		(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	鈴木 敬明
R6. 8. 21					
R6. 11. 12					
R7. 2. 3					鈴木 敬明 伊藤 芳典
R6. 4. 18	技術委員会		(Web)	中部エレクトロニクス振興会	山田 浩文
R6. 6. 20					
R6. 12. 19					
R7. 2. 20					
R6. 4. 25	HFP定例会	第1回	浜松商工会議所	(一社)静岡県繊維協会	木野 浩成 大木 結以
R6. 6. 18		第3回			木野 浩成
R6. 7. 23		第4回			
R6. 8. 16		第5回			
R6. 11. 26		第8回			
R6. 12. 7		第9回			
R7. 2. 25		第10回			
R7. 3. 18		第11回			
R6. 5. 16	光・電子活用チャレンジ事業費補助金審査委員会		(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R6. 5. 21	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点 事業運営委員会 ワーキング会議	第96回	浜松医科大学	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	渥美 博安
R6. 9. 17		第98回			
R6. 11. 19		第99回			
R7. 1. 21		第100回			
R7. 3. 18		第101回			

年月日	委員会等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 5. 22	新規EMC規格対応WG	(Web)	(一財) K E C 関西電子工業振興センター	山田 浩文
R6. 8. 19~20		(一財) K E C 関西電子工業振興センター		
R6. 12. 2~3				
R7. 2. 17		(Web)		
R6. 5. 28	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点令和6年度第1回事業運営委員会	浜松商工会議所	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	渥美 博安
R7. 3. 28				
R6. 5. 16	光・電子活用チャレンジ事業費補助金審査委員会	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	(公財) 浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R6. 6. 2	中部地区溶接技術検定委員会	浜松技術専門学校	(一財) 日本溶接協会 中部地区溶接技術検定委員会	植松 俊明
R6. 9. 1				
R6. 12. 1				
R7. 3. 2				
R6. 6. 6	レーザー中核人材育成講座事業統括委員会	えんてつ浜松駅貸会議室	(学) 光産業創成大学院大学	渥美 博安
R6. 12. 26				
R7. 3. 12				
R6. 6. 17	(一社) 静岡県繊維協会通常総会	浜松商工会議所	(一社) 静岡県繊維協会	木野 浩成
R6. 6. 19	中部エレクトロニクス振興会技術委員会 第1分科会	浜松工業技術支援センター	中部エレクトロニクス振興会	山田 浩文
R6. 10. 16		(Web)		
R6. 12. 9		浜松工業技術支援センター		
R7. 2. 18		(Web)		
R7. 2. 20		(Web)		
R7. 3. 17		浜松工業技術支援センター		
R6. 6. 21	車載機器EMC計測技術開発WG	(Web)	(一財) K E C 関西電子工業振興センター	山田 浩文
R6. 9. 20				
R6. 10. 9				
R6. 12. 20				
R7. 1. 15~16		直轄産業振興センターADOX福岡		

年月日	委員会等の名称		会場	主催	派遣者氏名
R6. 7. 3	金型技術研究会役員会及び総会		ホテルクラウンパレス	静岡理工科大学金型技術研究会	高木 誠
R6. 7. 5	令和6年度繊維機械学会東海支部総会		愛知県尾張繊維技術センター	(一社)日本繊維機械学会東海支部	木野 浩成
R6. 7. 12	GO-Tech 助成事業 研究開発推進委員会	第一回	(Web)	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	中野 雅晴 志智 亘
R7. 2. 21		第二回			
R6. 7. 22	モータードライブ応用研究会役員会及び総会		ホテルクラウンパレス	静岡理工科大学モータードライブ応用研究会	菅野 尚子
R6. 10. 10	基礎級技能検定実技試験検定委員会		神谷理研株式会社	静岡県職業能力開発協会	田光 伸也
R6. 12. 19	「静岡県創エネ・蓄エネ技術開発推進事業費補助金」選定委員会		県庁	エネルギー政策課	伊藤 芳典
R7. 2. 10	令和6年度スタートアップ支援事業成果報告会		アクトシティ浜松 コンgresセンター	はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点	伊藤 芳典
R7. 3. 24	A-SAP計画検討会		(公財)浜松地域イノベーション推進機構	(公財)浜松地域イノベーション推進機構	伊藤 芳典
R7. 3. 24	令和6年度繊維学会東海支部幹事会		(Web)	繊維学会東海支部	木野 浩成
派遣回数 58回				派遣人数 (延べ)	63人

(ク) 産業技術連携推進会議等への派遣

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	派遣回数	延べ派遣者数
工業技術研究所	20	29
沼津工業技術支援センター	5	5
富士工業技術支援センター	3	8
浜松工業技術支援センター	11	28
合計	39	70

(a) 工業技術研究所の実績

年月日	会議等の名称	会場	主催	派遣者氏名
R6.4.23	つながる工場テストベッド 事業報告会	(Web)	産総研	山下 清光
R6.6.25				
R6.7.23				
R6.8.27				山下 清光 岩崎 清斗
R6.9.24				山下 清光
R6.10.22				
R7.2.25				
R7.3.25				
R6.6.19	LS-BT 合同研究発表会	産総研つくばセンター	産総研・産技連	堀池 隼雄
R6.6.27~28	産業技術連携推進会議ライ フサイエンス部会デザイン 分科会	産総研北陸デジタル ものづくりセンター	産技連	油上 保 及川 貴康
R6.10.25		(Web)		油上 保 長澤 正 易 強 及川 貴康 多々良 哲也
R6.7.26	関東甲信越地区食品醸造研 究会	(Web)	長野県工業技術総 合センター	堀池 隼雄
R6.10.17	第6回 産総研-先端技術開 発型中堅・中小企業の交流 会 水資源の利活用技術交 流会	産総研つくばセンタ ー	産総研	本間 信行

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 10. 21	産業技術連携推進会議木質科学分科会	岐阜県生活技術研究所	産技連	大竹 正寿
R6. 10. 31～11. 1	第62回高分子分科会総会	地方独立行政法人北海道立総合研究機構本部	産技連ナノテクノロジー・材料部会 高分子分科会	矢嶋 雅
R6. 11. 14～15	産業技術連携推進会議塗装工学分科会	ハイテクプラザ会津若松技術支援センター	産技連	村松 重緒
R6. 11. 30	産業技術連携推進会議東海・北陸地域部会 機械・金属分科会	名古屋市工業研究所	産総研	岩澤 秀 磯部 佑太
R6. 12. 10	2024年度 産業技術連携推進会議 製造プロセス部会 I o Tものづくり分科会	あいち産業科学技術総合センター 産業技術センター	産総研	岩崎 清斗、 横井 功毅
R7. 1. 30	産技連 環境・エネルギー部会・分科会研究会合同総会	(Web)	産技連 環境・エネルギー部会	本間 信行
R7. 2. 14	全国食品関係試験研究場所長会定期総会	つくば国際会議場	全国食品関係試験研究場所長会	油上 保 松野 正幸
派遣回数 20 回			派遣人数 (延べ)	29 人

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(b) 沼津工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 7. 11	静岡県-産総研連絡会議	(Web)	産総研	鬼久保 郁雄
R6. 9. 27	中部公設試験研究機関 機関長会・研究者表彰式	愛知県産業労働センター (ウイंकあいち)	(公財) 中部科学技術センター	飯野 修
R6. 10. 30	産業技術連携推進会議 関東甲信越静地域産業技術連携推進会議、産業技術連携推進会議 関東甲信越静地域部会合同総会	東葛テクノプラザ	産技連 関東甲信越静地域産業技術連携推進会議、産業技術連携推進会議 関東甲信越静地域部会、関東経済産業局、国立研究開発法人産業技術総合研究所	飯野 修
R6. 12. 17～20	産業技術連携推進会議企画調整委員会	(書面)	産技連企画調整委員会	飯野 修
R7. 1. 21	産業技術連携推進会議総会	(Web)	産技連	飯野 修
派遣回数 5回			派遣人数 (延べ) 5人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(c) 富士工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 10. 23 ～ 24	産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会紙・パルプ分科会	富士工業技術支援センター	富士工業技術支援センター	田中 伸佳 深沢 博之 田村 克浩 齊藤 将人 伊藤 彰
R6. 10. 30	産技連合同総会	東葛テクノプラザ	産技連	田中 伸佳
R6. 12. 10	産技連製造プロセス部会 I o Tものづくり分科会	(Web)	産技連 I o Tものづくり分科会	増井 裕久 齊藤 和明
派遣回数 3回			派遣人数 (延べ) 8人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(d) 浜松工業技術支援センターの実績

年月日	会議等の名称	会 場	主 催	派遣者氏名
R6. 5. 16	コンポジットハイウェイコンソーシアム全体会議	(Web)	産技連東海・北陸地域部会 機械・金属分科会	木野 浩成
R6. 5. 22	令和6年度産業技術連携推進会 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 東海地域連絡会総会	浜松工業技術支援センター	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 東海地域連絡会	鈴木 敬明 伊藤 芳典 木野 浩成 宮原 鐘一 大木 結以 速水 優妃
R6. 6. 20~21	令和6年度産業技術連携推進会 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会総会	AOSSA (福井市)	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会	木野 浩成
R6. 10. 3	産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和6年度繊維技術研究会	十日町商工会議所	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会	大木 結以 速水 優妃
R6. 11. 5	令和6年度産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 東海地域連絡会 繊維技術研究会	あいち産業科学技術総合センター 三河繊維技術センター	産技連ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 繊維技術研究会 東海地域連絡会	鈴木 敬明 伊藤 芳典 木野 浩成 大木 結以 速水 優妃
R6. 11. 7	第9回地方公設試験研究機関金属AM技術担当者会議	東京都立産業技術研究センター	東京都立産業技術研究センター	田光 伸也 植松 俊明
R6. 11. 7~8	産業技術連携推進会議 知的基盤部会 第28回電磁環境分科会及び第33回EMC研究会	米子コンベンションセンター	産技連 知的基盤部会 電磁環境分科会	山田 浩文 原口 卓也
R6. 11. 21~22	産業技術連携推進会議 製造プロセス部会 精密微細分科会第5回積層造形研究会	福島県ハイテクプラザ 他	産技連	田光 伸也
R6. 12. 3~4	デジタルものづくり研究会	Co-startup Space & Community FUSE 浜松工業技術支援センター	経済産業省中部経済産業局 浜松工業技術支援センター 静岡県積層造形技術協議会	菅野 尚子 田光 伸也 植松 俊明 望月 智文 柳原 茉由 加用 敦也
R7. 2. 5	炭素繊維複合材料高度利活用技術研究会	(Web)	産技連 東海・北陸地域部会 機械・金属分科会	木野 浩成
R7. 2. 7	第22回 関東甲信越静EMC研究交流会 およびMTEP EMCパートナーグループ会	東京都立産業技術研究センター	産技連 知的基盤部会 電磁環境分科会	原口 卓也
派遣回数 11回			派遣人数 (延べ) 28人	

注) 産技連：産業技術連携推進会議
産総研：(国研)産業技術総合研究所

(ケ) 学会等への発表、外部発行誌等への投稿及び展示会への出展

a 工業技術研究所及び工業技術支援センターの実績合計

	学会等発表回数 (ポスター発表 含む)	学会誌等投稿	一般誌投稿	展示会出展
工業技術研究所	14	3	0	11
沼津工業技術支援センター	3	1	0	5
富士工業技術支援センター	5	1	2	6
浜松工業技術支援センター	12	4	2	6
合計	34	9	4	28

(a) 工業技術研究所の実績 (※はポスター発表)

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6. 5. 23	野生鹿および猪の副産物 (内臓肉) に含まれる遊離 アミノ酸量についての報告	第78回日本栄養・食糧 学会大会	—	長房 秀幸
R6. 7. 11	セルロースナノファイバー と香り成分による放散挙動 変化※	セルロース学会第31回 年次大会	—	石橋 佳奈
R6. 7. 11 ~ 12	自動車用湿式摩擦材中のセル ロースナノファイバー (CNF) 定量分析手法の 開発※	セルロース学会第31回 年次大会	要旨集	野澤 遼
R6. 10. 26	鋳造用アルミニウム合金の 鋳肌黒色化及び硬さに及ぼ すSnの影響	(公社) 日本鋳造工学 会	(公社) 日本鋳造工 学会 全国講演大会 概要集	磯部 佑太 岩澤 秀 吉岡 正行
R6. 10. 26	アルミニウム合金鋳物のミ クロ組織に及ぼす微量不純 物の影響			岩澤 秀
R6. 11. 13	不織布を適用した低周波風 防による屋外風雑音の測定	(公社) 日本騒音制御 工学会2024年秋季研究 発表会	研究発表会講演論文 集	木野 直樹

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
R6. 11. 21	豆乳の凍結融解によるタンパク質分画条件と物性の相関関係	第42回種子生理生化学研究会年会	—	松野 正幸
R6. 12. 2 ~ 3	未利用海藻熱水抽出物のJ774.1細胞サイトカイン産生への影響*	日本食品免疫学会設立20周年記念学術大会	—	長房 秀幸
R7. 2. 27	乳酸菌発酵甘酒の香り変化について*	第8回京都生体質量分析研究会・第3回天然香気研究会 合同国際シンポジウム	—	石橋 佳奈
	フードテックを活用した高付加価値食品の開発*		—	山本 佳奈恵
R7. 3. 4~8	新規乾燥技術を施した緑茶葉の香気特性及びアミノ酸含有量評価*	日本農芸化学会2025年度大会	—	松野 正幸
R7. 3. 12 ~ 13	高濃度セルロースファイバー複合化がポリプロピレンへのめっき密着性に及ぼす影響	(一社)表面技術協会第151回講演大会	講演要旨集	田中 宏樹
R7. 3. 13	中小企業版デジタルツインの検討	情報処理学会第87回全国大会	—	岩崎 清斗
	仮想空間上の生成データで学習したAIを用いたIoTシステムの提案		—	横井 功毅
学会誌及び専門誌への投稿				
R6. 7. 20	セルロースナノファイバーの建築資材への利用	—	ナノファイバー学会誌Vol. 15No. 1-2	村松 重緒
R6. 11. 13	Tuna(Thunnus alalunga) Gil l Extract Alters Gut Micro biota Composition and Increases Fecal Immunoglobulin A Levels in Male Mice	—	ACS FOOD SCIENCE & TECHNOLOGY	長房 秀幸
R7. 2. 26	Effect of bubble size on microbial community in intermittently-aerated activated sludge process in wastewater treatment	—	Process Biochemistry Vol. 152 pp. 38-46 (2025)	岡本 哲志
一般誌等への投稿				
実績なし				
展示会への出展				
R6. 4. 4~ 5. 2	バイオマス燃料電池材料の研究	浜名湖花博	—	菊池 圭祐
R6. 4. 6~ 5. 2	静岡県産バラを活用した化粧品品の香り評価*		—	松野 正幸

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
R6. 6. 12～ 14	デザインマッチング他事業 紹介*	シズオカ [KAGU] メッセ	—	ユニバーサルデ ザイン科
R6. 6. 12	家具の性能評価承ります！ 椅子編①、その他編②		—	大竹 正寿 前田 研司
R6. 6. 13			—	村松 重緒
R6. 6. 14			—	大竹 正寿 船井 孝
R6. 7. 25	中小企業版デジタルツイン デモの展示	Fujinokuni Digital's Day	—	岩崎 清斗
R6. 7. 26			—	
R6. 7. 27			—	
R6. 10. 15		CEATEC Japan 2024	—	岩崎 清斗 横井 功毅
R6. 10. 16			—	
R6. 11. 8		いわた産業展示フェア	—	鈴木 悠介 岩崎 清斗
R6. 11. 13		新技術交流イベント in Shizuoka 2024	—	岩崎 清斗 横井 功毅
R6. 11. 29		S H I P縁日	—	岩崎 清斗
R6. 9. 13	燃料電池触媒の発電性能評 価	ふじのくに 医療・介 護福祉機器展	—	菊池 圭祐
R6. 10. 9～1 0	Acceleration of cooperat ion of industries and i nstitutions between Shi zuoka and Germany	PHOTONICS DAYS 2024 (ベルリン)	—	豊田 敏裕
R6. 10. 24～ 25	CNFを活用したアロマ基 礎化粧品の開発*	ふじのくにセルローズ 循環経済国際展示会	—	石橋 佳奈
R6. 11. 7～8	デザインマッチング他事業 紹介*	医療介護福祉機器展	—	ユニバーサルデ ザイン科
R6. 11. 7	家具試験（福祉用機器）の 紹介	ふじのくに医療・介護 福祉機器展	—	大竹 正寿
R7. 2. 14	家具の性能評価承ります！ 木製家具を対象としたC A E解析	Shizuoka-Products For um2025	—	船井 孝 前田 研司
R7. 2. 15			—	村松 重緒 船井 孝 油上 保
R7. 2. 16			—	油上 保 大竹 正寿
合計件数 28件		学会等発表 14件・投稿等 3件・展示会 11件		

(b) 沼津工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6. 9. 9	第76回日本生物工学会	Development of seed koji suitable for sake brewing in Shizuoka Prefecture	—	鈴木 雅博 袴田 雅俊 飯塚 千佳世 杉本 芳邦
R6. 11. 7	海洋由来微生物を活用したサワービールの開発	BCOJ (Brewery Convention of Japan) 年次大会	—	バイオ科
R7. 3. 6	コーヒーかす抽出液を利用した酵母によるバイオステイミュラントの生産※	日本農芸化学会	—	袴田 雅俊
学会誌及び専門誌への投稿				
R6. 10. 25	静岡酵母と静岡県の酒造りについて	—	生物工学会誌	鈴木 雅博
一般誌への投稿				
実績なし				
展示会への出展				
R6. 4. 4～5. 2	板成形シミュレーションの高精度化に向けた取組※	浜名湖花博	—	是永 宗祐
R6. 5. 2～6. 2	伊豆特産サクラ葉の素材化と抗炎症評価※		—	袴田 雅俊
R6. 11. 7	本県初！静岡オリジナル清酒用種麴の開発※	Made in Mt. Fuji ふじのくに医療・介護福祉機器展—富士山麓産学官金連携フォーラム2024—	—	鬼久保 郁雄 黒瀬 智英子
	二軸引張試験等の導入による高精度プレス成形シミュレーションの実施※			
	本県独自の清酒用種麴の開発フローの構築※			
合計件数 9 件		学会等発表 3 件・投稿等 1 件・展示会 5 件		

(c) 富士工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6. 9. 3	隠れマルコフモデルを用いた乳牛の疾病検知方法の検討	第40回 ファジィシステムシンポジウム	—	井出 達樹
R6. 9. 14	Detecting Digestive Disorders in Dairy Calves Based on Behavioral Analysis Using Hidden Markov Models	第11回 IIAE International Conference on Intelligent Systems and Image Processing (ICISIP) 2024	—	井出 達樹
R6. 9. 16	隠れマルコフモデルを用いた行動解析に基づく乳牛の消化器疾患の検出	産業応用工学会全国大会2024	—	井出 達樹
R6. 10. 10	遠州織物の廃材を利用したリサイクル紙の開発	第67回紙パルプ技術協会年次大会	—	伊藤 彰
R6. 11. 11	Study on the Extraction Method of Activity Levels for Disease Detection in Dairy Cows Using Optical Flow Image Analysis	2024 Joint 13th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems&25th International Symposium on Advanced Intelligent Systems	—	井出 達樹
学会誌及び専門誌への投稿				
R6. 9. 1	深層学習を用いた乳牛の分娩時「いきみ」検知技術の開発	一般社団法人電気学会	電気学会論文誌C (電子・情報・システム部門誌) Vol. 144 No. 9	井出 達樹
一般誌への投稿				
R6. 5. 1	AIを活用した古紙原料の判別に関する研究	—	紙パルプタイムス 第67巻第5号	齊藤 和明 井出 達樹 増井 裕久
R6. 7. 20	画像解析に基づく乳牛の疾病検出のための機械学習手法の開発	—	アグリバイオ 第8巻7	井出 達樹
展示会への出展				
R6. 4. 6 ~ 6. 2	次世代自動車軽量化のためのCNF複合材の開発、プラスチック資源循環実現に向けたCNF複合樹脂のリサイクル性の評価※	浜名湖花博	—	CNF科
	遠州織物の廃材を利用したリサイクル紙の開発※		—	製紙科

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
R6. 5. 2 ~ 6. 2	A I を用いたスマート畜産 への取組について	浜名湖花博	—	井出 達樹
R6. 10. 24 ~25	「C N F 等微細化セルロー スのサンプルを御提供しま す」、「新型リファイナ ーを用いた C N F 製造の試 み」、「ふじのくにCNF研究 開発センター」※	ふじのくにセルローズ 循環経済国際展示会	—	山下 晶平 渡邊 雅之 山崎 利樹 小坏 慎太郎
R6. 11. 8 ~ 9		産業振興フェアinいわ た	—	
R6. 10. 24 ~25	遠州織物の廃材を利用した リサイクル紙の開発※	ふじのくにセルローズ 循環経済国際展示会	—	伊藤 彰 田村 克浩
R6. 11. 8 ~ 9		産業振興フェアinいわ た	—	
R7. 2. 7~8		ものづくり力交流フェ ア2025	—	伊藤 彰 齊藤 将人 田村 克浩
R7. 1. 29 ~ 31	「C N F 等微細化セルロー スのサンプルを御提供しま す」※	nano tech2025	—	渡邊 雅之 山崎 利樹 小坏 慎太郎
合計件数 14 件		学会等発表 5 件・投稿等 3 件・展示会 6 件		

(d) 浜松工業技術支援センターの実績 (※はポスター発表)

年月日	項 目	発 表 会 名	発表刊行物	発表者名
学会等への発表				
R6. 9. 4	路面に図形を描画するマイクロプリズムアレイの作製と形状評価	2024年度精密工学会秋季大会学術講演会	—	中野 雅晴 志智 亘
R6. 10. 3	海洋での分解速度を制御できる漁具用モノフィラメント糸の開発	令和6年度産業技術連携推進会議繊維分科会繊維技術研究会	—	大木 結以
R6. 11. 8 ~ 10	選択的レーザー溶融法によるアルミニウム合金製部品の製造プロセスの有限要素解析	第75回塑性加工連合講演会	—	田光 伸也 大澤 洋文 植松 俊明
R6. 11. 25	海洋での分解制御機能を有する漁具用繊維の開発に向けた取り組み	令和6年度産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料部会繊維分科会東海地域連絡会繊維技術研究会	—	大木 結以
R6. 11. 28	海洋生分解性樹脂PCLへのPHA添加による酵素分解抑制効果※	2024年繊維学会秋季研究発表会	—	大木 結以 鈴木 重好 木野 造成
	海洋生分解性樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維における分解抑制現象		—	
R6. 12. 5 ~ 7	Evaluation of effect of forming condition on strength of formed part by Powder Bed Fusion type additive manufacturing	第7回アジア材料・加工シンポジウム2024 (ASMP2024)	—	大澤 洋文 植松 俊明
R6. 12. 6	海洋での分解速度を制御できる漁具用繊維の開発	第37回東海支部若手繊維研究会プログラム	第37回東海支部若手繊維研究会講演要旨集	大木 結以 鈴木 重好 木野 造成
R7. 3. 4	選択的レーザー溶融法によるアルミニウム合金製部品の寸法精度, 内部応力および機械的性質の評価	(公社)日本材料学会東海支部第19回学術講演会	—	植松 俊明 田光 伸也 大澤 洋文
R7. 3. 7	海洋生分解性樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維の酵素分解性と海水での耐久性※	24-3 エコマテリアルシンポジウム	—	大木 結以 鈴木 重好 木野 造成
R7. 3. 12 ~ 13	L-PBF法により作製したアルミニウム合金材に対する陽極酸化処理性の検証※	(一社)表面技術協会 第151回講演大会	—	田光 伸也
R7. 3. 28	BCI法における複数ワイヤ端のストレス分析	2025年電子情報通信学会総合大会	—	山田 浩文

年月日	項目	発表会名	発表刊行物	発表者名
学会誌及び専門誌への投稿				
R6. 5. 1	積分球による全光束測定における内部空間応答分布関数の影響	—	照明学会誌	志智 亘
R6. 11. 1	サブナノ秒レーザーピーンフォーミングによる薄板の球面成形	「塑性と加工」	塑性加工学会誌	鷺坂 芳弘
R6. 11. 8	レーザーピーンフォーミングによる板曲げにおいて走査速度がパルスあたりの曲げ変形量に与える影響			
R6. 11. 25	ナノ秒グリーンレーザーピーンフォーミングによる板曲げにおける水噴射方法の影響			
一般誌への投稿				
R6. 6. 22	白色干渉計による傾斜面の形状測定 - 傾斜基準面を用いた角度測定範囲の拡張 -	—	月刊JETI2024年7月号	中野 雅晴
R6. 9. 11	新成長分野発展に貢献する軽量高強度材料（CFRP）の高効率成形技術の確立	—	プレス技術	木野 浩成
展示会への出展				
R6. 6. 8	綿の産地フェア	アミューズ豊田<サブアリーナ>	—	繊維高分子材料科
R6. 7. 6～7	注染・ゆかた・和装展	浜松駅前ギャラリーモール「ソラモ」	—	
R6. 8. 3	まちなかワクワクアカデミー		—	
R6. 10. 19～. 20	はままつ染め織りマーケット		—	
R6. 11. 5～10	金属3Dプリンタを活用したものづくり支援のための積層造形技術開発	JIMTOF2024（第32回日本国際工作機械見本市）	—	田光 伸也 植松 俊明
R7. 1. 29～31		TCT Japan 2025（公設試パビリオン）	—	田光 伸也 植松 俊明 大澤 洋文 望月 智文 菅野 尚子
R7. 1. 16	炭素繊維強化複合材料（CFRP）の高効率成形技術の開発	コンポジットハイウェイコンベンション2024	—	木野 浩成
合計件数 24		学会等発表12件・投稿等 6件・展示会 6件		

(2) 令和6年度研究成果一覧

ア 工業技術研究所

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共司 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び 普及等の状況	備 考
新成長戦略研究	設備、モノ、ヒトの統合的データ分析による生産性の効率化	継続	単独	R4 ～ R6	生産機器の稼働状況の見える化へのIoT技術の導入の次のステップとして、ヒトやモノの動きを追加して生産計画への適用を図り、工場全体の効率化を図る。	中小企業版デジタルツインのモデル企業に対しシステムを構築し、設備のレイアウト変更や生産工程の事前シミュレーションを可能にした。この要素技術の横展開により関連企業や他分野へシステムの開発・実装を行った。	モデル企業で開発したデジタルツインのノウハウを活用し、複数企業への横展開を行った。また、展示会の出展、セミナー・学会等の発表による普及活動を行った。	
新成長戦略研究	未利用茶葉等の多用途加工技術の開発	新規	単独	R6 ～ R8	二番茶以降の茶葉や、荒茶工場から廃棄される加工残さの茶渋など、未利用茶葉の有効活用と、輸出に向けた加工技術を開発することにより、茶生産者等の収益向上と関連産業の活性化を図る。	次亜塩素酸水等による除菌洗浄を施した生茶葉について、微生物検査を行い、その効果について検証した。また、茶業研究センターと協力して、茶の機能性及び香味成分を保持する製法技術開発に取り組んだ。	次亜塩素酸水による除菌洗浄条件について最適化され、実際の現場で活用される予定。また、茶の機能性・香味成分保持製法技術により商品を開発予定。	農林技術研究所茶業研究センター 農林技術研究所(本所)
新成長戦略研究 (チャレンジ研究枠)	静岡県の海藻を用いた免疫バランスを制御する食品成分の探索	新規	単独	R6	静岡県で採られる海藻から抗アレルギー作用を持つものを細胞試験等によって探索することにより、未利用海藻の利用促進や健康増進政策への貢献を図る。	海藻サンプル8種類を評価し、抗アレルギー作用が期待できるTh1細胞活性化作用が顕著な海藻としてマクサおよびマタボウを見出し、作用メカニズムまで明らかにした。	今後企業と連携し、健康食品や化粧品としての実用化を目指していく。	
新成長戦略研究 (政策課題指定枠)	しずおか木製家具復興のための県産広葉樹活用技術の開発	新規	単独	R6 ～ R7	しずおか家具の復興を目指し、DXによる強度シミュレーションと、5軸マシニングによる自由曲面で構成された脚物家具の設計・製造プロセスを確立する。	静岡県産広葉樹に対する材料試験を実施し、木材の破壊基準を構築した。また、構築した破壊基準をCAEシステムに実装し、家具の強度評価が実施できることを示した。	本研究で得られるDX技術によるしずおか家具の設計・製造プロセスを公開し、県内「脚物」家具産業の出荷額向上につなげる。	

県単独研究 (競争的資金 による研究) 科研費	セルロースナノファイバーによる香り成分の徐放機構の解明及び放散制御技術の開発	継続	単独	R2 ～ R6	CNFによる香りの徐放機構解明と、放散機構を明らかにすることで、香りの放散制御技術を確立する。	香り成分の種類により放散挙動が異なることが示唆された。CNFの繊維長による香りの放散機構は、CNFによる三次元ネットワークが関与していることが示唆された。	県産の香りを活用した製品や徐放性の技術を提案し、県内外に発信することで、研究成果の普及を図る	
県単独研究	半溶融成形法の高度化技術開発	継続	単独	R5 ～ R6	半溶融成形法の応用研究において、1) ビレットの低コスト化を目的とした矩形・異形スラブ開発、2) 成形性を高めた高流動性合金の開発を行う。これによって、本工法の適用拡大を狙う。	鋳造条件を最適化することで、半溶融成形法に適した矩形及び異形スラブを製造することができた。Si含有量を10%まで高めることで、流動性及び成形性を高めた合金組成を得ることができた。	本開発技術を用いた応用技術開発及び製品開発技術について県内企業と共同開発を行ない、県内ものづくり技術の発展に寄与する。	
県単独研究	音声認識技術を用いた自動車室内音環境の評価に関する研究	継続	単独	R5 ～ R7	自動車内装は、電動化で大きく変わった自動車室内音に対して、これまで以上に重要となっている。そこで、車室内の音場を音声認識技術を用いて数値化し、自動車内装が車室内の音場および影響を評価する。	公開されている音場データベースを使用して様々な室内音場での音声データを仮想的に作成し、初年度に構築した音声認識システムで室内音場の評価システムを構築した。	来年度以降、企業との受託研究にて自動車内装等の開発に活用していく。	
県単独研究 (競争的資金 による研究) 科研費	高結晶コーヒーカーボン活性炭への白金埋入による高耐久性燃料電池触媒の開発	継続	単独	R5 ～ R7	固体高分子形燃料電池は次世代エネルギー源として普及が期待されているが、電極触媒の耐久性向上が課題である。本研究では、活性炭のメソ細孔への白金埋入と触媒を用いた黒鉛結晶化により、耐久性向上を目指す。	水蒸気触媒によるコーヒーカーボン活性炭の細孔形成とNiを用いた黒鉛結晶化を複合化して新規炭素材料を創製した。白金ナノ粒子を担持させ燃料電池触媒へと加工した。	開発した触媒を用いた燃料電池を作製し、初期性能及び耐久性性能を評価していく。	
一般共同研究	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	継続	共同	R4 ～ R6	CNFとオレフィン系樹脂との複合材について、自動車部品への適用のためCNFの改質等により耐衝撃性等の物性向上を目指す。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	ポリプロピレン/セルロース繊維複合材射出成形品への高密着なめつき技術の開発	継続	共同	R5 ～ R6	家電や自動車に使用されるポリプロピレン/セルロース繊維複合材射出成形品に耐食性、意匠性及び電磁波シールド性を付与するための高密着なめつき技術について、射出条件及び実用化に向けた評価技術を検討する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社

一般共同研究	CNF複合樹脂を用いた発泡ブロー成形技術の開発	継続	共同	R5 ～ R6	発泡ブロー成形による自動車用部品の樹熱性の向上が求められている。樹脂中にCNFを分散させ、発泡ブロー成形することで高い空隙率を実現し、樹熱性向上、軽量化を目指す。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究 (競争的資金による研究) A-STEP産学共同 (育成型) (JST)	白金の超強度化技術による大型モビリティ搭載用固体高分子形燃料電池電極触媒の開発	継続	共同	R5 ～ R7	大型・商用モビリティへの燃料電池搭載には、広作動域で高い耐久性が求められる。本課題では、「原料の段階から白金構造を強度化する」という合成化学的アプローチから固体高分子形燃料電池用空気触媒を創製する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	静岡大学 あいち産業科学技術総合センター
一般共同研究	好気性グラニュールを利用した高濃度窒素排水処理装置の開発	継続	共同	R5 ～ R6	本研究では、先行研究で新たに発見した好気性グラニュール(AGS)を利用することで、有機性炭素及び窒素の同時除去を可能としながら、高負荷排水にも対応したコンパクトな処理装置を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	CNFを用いた低環境負荷型湿式摩擦材の実用化に向けた開発	新規	共同	R6 ～ R7	自動変速機用湿式摩擦材(摩擦材)にCNFを適用し、材料特性及び摩擦特性の向上を試みる。また、性能向上に関するメカニズムを解明する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	加飾性を有するセルローズファイバー複合熱可塑性樹脂の開発	新規	共同	R6 ～ R8	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金による研究) A-SAP産学官金 連携イノベーション推進事業	MPA技術を用いた新しい光パターンLED照明の開発	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	(公財)浜松地域イノベーション推進機構 企業1社

受託研究 (競争的資金 以外の研究)	Sn、Agめっきの変 色現象の解析に関 する研究	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	鉄球鋳型の諸性質 測定	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	レーザー溶接の溶 接条件に関する研 究	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	特殊鋳鉄及び改良 アルミニウム合金 の諸性質に関する 研究	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	実暴露及び促進暴 露試験した軟質PVC 材料の深さ方向の 定性把握	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	一般社団 法人 電線 総合技術 センター
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	切削加工及び射出 成形による次世代 車載用光学部品 の実用化に向けた技 術開発	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	緑茶ブレンド焼酎 の香り特性評価	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	陸上養殖アトラン ティックサーモン の血液中に含まれ る機能性成分の探 索	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	一般財団 法人マリ ンオーブ ンイノー ベーション 機構

受託研究 (競争的資金 以外の研究)	超低周波磁界を利用したローコストな業務用急速冷凍庫の商品化に向けた食品等の評価に関する研究	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	おからの食用利用を行うための衛生調査ならびに、おからとマグロを用いた食品開発に向けた最適配合の研究	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	静岡県の水産物・水産加工食品の網羅的機能評価と有効機能の探求システムの開発	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	東京科学 大学
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	持続可能な地産地消型バイオガスエネルギー供給技術の開発と実証	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	竹活性炭へのメソ細孔形成が燃料電池特性へ及ぼす影響	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	燃料電池式アルコールセンサーに用いるMEAの発電特性評価	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金 以外の研究)	バルカナイズドファイバー合板を使用した新規車両用床材の開発	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

受託研究 (競争的資金 以外の研究)	リサイクル用パル プ繊維を活用した 左官材料の開発	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
--------------------------	---------------------------------	----	----	----	-----------------	-----------------	-----------------	------

イ 沼津工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用及び 普及等の状況	備 考
新成長戦略各研究 (チャレンジ研究枠)	酢酸イソアミルを高生産する吟醸酒用の新規静岡酵母の開発	新規	単独	R6	県産青西の海外展開に向け、香り豊かでキレの良い酒質を実現することが業界から求められている。そこで本研究では、本県産青西の特徴香であるバナナ様の香氣成分を高生産する酵母の開発を目指す。	既存の静岡酵母5株を親株として、育種を行い、計695株の育種株を取得した。この育種株について、簡易発酵試験や清酒小仕込み試験にて醸造性を評価し、新規静岡酵母候補株を複数取得した。	本研究にて得られた成果は、工業技術研究所研究発表会等で報告し、県内酒造メーカーに普及を図った。本研究で選抜した新規静岡酵母候補株の実用化に向けて、新しい研究課題を提案予定。	
県単独研究	本県オリジナル酒造好適米「令和誉富士」を用いる清酒の醸造技術の確立	新規	単独	R6 ～ R8	令和5年度より使用を開始している新たな本県オリジナル酒造好適米「令和誉富士」の原料米特性及び醸造特性などの特徴を明らかにするとともに、本酒造好適米を用いる清酒の醸造技術の確立を目指す。	酒造用原料米統一分析や尿素崩壊性試験を行い、「令和誉富士」の原料米特性や醸造特性を評価した。また「令和誉富士」の醸造中の溶出について、他品種との差や収穫年差による差等を明らかにした。	本研究にて得られた成果は、酒造研修会や工業技術研究所研究発表会にて報告し、県内酒造メーカーに普及を図る。また、「誉富士推進協議会」を通じて、当該米の生産農家に対しても広く普及を図る。	
一般共同研究 (競争的資金による研究) 新成長産業戦略的育成事業(財団)	二軸引張試験を活用した成形シミュレーションの予測精度向上	継続	共同	R5 ～ R6	板成形シミュレーションの形状予測精度の向上には、材料の変形特性を表した材料モデルが必要である。本研究では、材料モデルを正確に取得可能な二軸引張試験を行い、形状予測精度を向上させることを目的とする。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	整形外科用インプラントの強度評価	新規	共同	R6 ～ R7	高齢化に伴って、一般的な斜骨折ではなく、横骨折を含む非定型骨折という新たな症例が増加している。本研究では、近年急増している症例に対応可能な新規インプラントを試作し、曲げ強度を評価する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社

受託研究 (競争的資金以 外の研究)	令和6年静岡 県清酒鑑評会 における出品 酒の成分分析 とそれら成分 が官能評価に 与える影響に 関する調査研 究	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	静岡県酒造組 合
受託研究 (競争的資金以 外の研究)	自然界から分 離したビー ル・ウイスキ ー用酵母の新 しい活用法の 検討研究	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	国立大学法人 静岡大学 発 酵とサステナ ブルな地域社 会研究所
受託研究 (競争的資金以 外の研究)	アルミニウム 合金鑄造材の ヤング率測定 手法の検討	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

ウ 富士工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	備 考
県単独研究	AIを活用した古紙原料の半別けに関する研究	継続	単独	R5 ～ R6	再生紙工場では、どのような古紙原料が不明なために損紙が発生するなどの課題がある。国や県で推進するDXの一環として、AIを活用して古紙原料を半別けする技術を開発し、再生紙工場の効率化を目的とする。	光学測定データから機械学習によって、布片を繊維別に、紙片を古紙と別け、UVインキ印刷物と油性インキ印刷物と紙で半別けできた。市販ハイパースペクトルカメラと機械学習によって、同様に半別けすることができた。	協力会社に研究結果を報告し、協力会社を通じて普及に努めている。また、研究発表会、富土地域の紙関連研究会、学会のシンポジウムにて口頭発表し、紙の業界誌へ投稿（2件）するなどして普及を図っている。	
県単独研究	古紙処理工程における効果の高い低密度化手法の追究	新規	単独	R6 ～ R7	一般的な「古紙処理工程」に注目し、各古紙処理工程の低密度化阻害要因と促進要因を把握し、実際の県内製紙工場の古紙処理工程における低密度な紙の製造に貢献可能な技術開発を行う。	原料古紙毎に加温処理による低密度化の傾向は大きく異なり、原料配合により低密度化の効果が大きく変わること、及び、加温処理により低密度化する紙は、加温により曲がりやすい繊維が多い原料であることがわかった。	紙が低密度化するメカニズムを解明し、研究協力機関である東京農工大学と連名で学術誌への投稿を目指して実験を行っている。	
県単独研究	廃棄衣料の古紙代替利用に関する研究	新規	単独	R6 ～ R7	デジタル化や広告媒体の切替などで紙の使用量が激減し、トイレトペーパーなどに使う古紙は、今後、不足すると予測されている。本研究では、不足する古紙の代替として、廃棄衣料を利用することを目的とする。	廃棄衣料を古紙代替として利用するため、解繊条件を検討した。種々条件でリファイナを用いた湿式解繊を行い、古紙シल्पに近い性状を有する繊維を解繊できる手法を確立した。	廃棄衣料を古紙原料の代わりに利用する際の手法を技術指導、紙・パルプ業界誌などを通して普及する。	
一般共同研究	リファイナを用いた低コストCNF製造技術の開発	継続	共同	R4 ～ R6	新型リファイナのCNF製造向け専用刃物の改良など最適運転条件の確認を行い、より低コストのCNF製造方法の開発を目指す。また、サンプル提供を行い、リファイナCNFの普及をはかる。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社

一般共同研究	自動車用途向けCNFオレフィン系樹脂の機械的物性向上及び成形性の安定化	継続	共同	R4 ～ R6	CNFとオレフィン系樹脂との複合材について、自動車部品への適用のためCNFの改質等により耐衝撃性等の物性向上を目指す。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	加齢性を有するセルロースファイバー複合熱可塑性樹脂の開発	新規	共同	R6 ～ R8	輸送機器材料の低CO ₂ 化のためポリプロピレンへの材料転換が進んでいるが、加齢性を持たないため前処理工程が必要となる。セルロースファイバーを複合することで加齢性を有する熱可塑性樹脂材料を開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究 (競争的資金による研究) 科研費	説明可能なAIを用いた牛群中での乳牛の序列を決定する要素の解明	新規	共同	R6 ～ R8	画像解析により乳牛の序列を判定する深層学習モデルの作成し、説明可能なAIによる解析で序列決定に必要な要素を解明化することで、難しいとされる群飼育における乳牛の個体管理の自動化・効率化に繋がる。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	畜産技術研究所 日本工業大学
受託研究 (競争的資金以外の研究)	新規古紙原料の探索	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

エ 浜松工業技術支援センター

区分 事業名	研究テーマ (細目) 研究内容	終了 継続 新規 廃止 の別	国庫 受託 単独 共同 の別	研究 期間	研究目的 背景等	研究成果	研究成果の活用 及び 普及等の状況	備 考
新成長戦略 研究	金属3Dプリンタ を活用したものづく り支援のための 積層造形技術開発	継 続	共 同	R5 ～ R7	製造現場では開発期間短縮や軽量 化等の解決のため、その解決に金 属3Dプリンタの使用が期待されて いるが、金属粉末材料が高額なこ とや物性・造形精度など様々な課 題があり普及が進んでいない。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
県単独研究	熱可塑性炭素繊維 強化複合材料(C FRTP)の循環 利用	継 続	単 独	R5 ～ R6	軽量化技術は、成長産業における 共通の重要課題である。熱可塑性 炭素繊維強化複合材料(CFRTP)は 軽量高強度材料であるが、製造時 のエネルギー負荷が大きく、マテ リアルリサイクルのための技術開 発を進める。	破砕によるリサイクルでは、炭素 繊維の繊維長が短くなって強度低 下が著しい。トランスファー成形 機を使用して炭素繊維の短繊維化 を防ぐことで、強度低下を防ぐこ とができた。	浜松地域FRP事業化研究会と協力 して、展示会に出展することで研 究成果を広く普及させる。	
県単独研究	コミュニケーション ライティング技 術の社会実装に 向けた製品化支援 — 光学設計技術に よる照明性能を向上 させる手法の開発 —	新 規	単 独	R6 ～ R7	光を通すだけで図形を投影できる 光学素子「マイクロプリズムアレ イ」は、投影面積が大きい場合に 明るさと解像度が低下する課題が ある。本研究では複数の光源を用 いてこの課題を改善させる方法に ついて検討する。	複数の光源とマイクロプリズムア レイによる投影像を光学シミュレ ーションと実験結果を比較するこ とにより、コンピュータ上で、投 影像が予測できるようになった。	県内照明機器メーカーに対して同 社の図形投影装置の視認性を向上 させるマイクロプリズムアレイの 設計・試作を行い、新製品開発を 支援した。	
県単独研究	自動車用大型樹脂 部品の熱変形シ ミュレーション手 法の開発	新 規	単 独	R6 ～ R7	自動車への導入が進む樹脂部品 は、複雑な熱変形挙動を示す。本 研究では、CAE(シミュレーション) による樹脂部品の熱変形予測精度 の向上のため、モデルの最適化及 び変形の測定機能の改良を行う。	クリープを考慮した樹脂熱変形シ ミュレーションを構築した。ま た、恒温槽内における非接触熱変 形測定精度の検証法を開発し、測 定誤差を得た。非接触熱変形測定 の技術相談等に利用された(R6相 談件数21件)。	3DスキャナやCAE関連の技術相談、 研究会及びセミナー・ワークショ ップ等での普及活動を行う。ま た、得られた物性データを公開す る計画である。	

県単独研究	材料特性データに基づく高張力鋼（ハイテン）板の成形工程削減	新規	単独	R6 ～ R7	自動車軽量化のためハイテン板が増えているが、形状戻り等の問題で金型修正増加が課題である。シミュレーションによる金型形状検証が必須のためハイテン板の物性データを取得し、金型修正工程削減を目標とした。	4種のハイテン板の物性データを取得し、プレス・金型企業11社の協力で4種のCAEソフトによるシミュレーションを実施し、金型形状検証を行った。検証結果は各企業で共有し最適化を進めている。	取得した物性データはプレス・金型企業と共有し、プレス加工や金型製作への適用を進めている	
県単独研究 (競争的資金による研究) 科研費	生分解生樹脂PHAとPCLの混合樹脂からなる繊維における生分解抑制要因の解明	新規	単独	R6 ～ R8	海洋生分解生樹脂PHAとPCLを混合して繊維を成形すると海水中での耐久性が向上するが、その機構は明らかでない。酵素や微生物を用いた繊維の分解試験や分解状態の比較から、分解を抑制する因子を推定する。	PHAとPCLの混合樹脂からなる糸について酵素分解試験を行い、分解反応が抑制されることを確認した。糸の側面観察から、PHA成分とPCL成分はそれぞれが微細な繊維束を形成していることが明らかになった。	繊維学会秋季研究発表会(11月)にてポスター発表1件と口頭発表1件、東海支部若手繊維研究会(12月)にて口頭発表1件、高分子学会エコマテリアルシンポジウム(3月)にてポスター発表1件を行った。	
一般共同研究	簡易的な電波到来方向推定システムの開発	継続	共同	R5 ～ R6	電波到来方向推定機器として、2つの固定したアンテナで推定範囲を180°以下にして小規模・低コストでの作製を見込み、簡易的に推定するシステムを開発する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	加断性を有するセルローズファイバー複合熱可塑性樹脂の開発	新規	共同	R6 ～ R8	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
一般共同研究	自動車シート用PET繊維の水平リサイクルの実現	新規	共同	R6	PET糸からなる基布端材の有効活用に向け、基布端材を紡糸装置に投入可能であるペレット形状に加工し、同程度の性能を示す糸に再成形するために必要な技術を確認する。	共同研究につき公表を控えます。	共同研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金による研究) A-SAP産学官金連携イノベーション推進事業	MPA技術を用いた新しい光パターンLED照明の開発	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	(公財)浜松地域イノベーション推進機構 企業1社

受託研究 (競争的資金以外の研究)	切削加工及び射出成形による次世代車載用光学部品の実用化に向けた技術開発	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外の研究)	鋳鉄材料組織が与える切削性への影響および切削性評価方法の確立	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外の研究)	金属3Dプリンタ製アルミ材に対するエッチング効果の検証	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社
受託研究 (競争的資金以外の研究)	鋳ぐるみ接合による鋳造材と積層造形材の接合性評価	新規	受託	R6	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	受託研究につき公表を控えます。	企業1社

静岡県工業技術研究所

〒421-1298 静岡市葵区牧ヶ谷2078

TEL 054-278-3028 FAX 054-278-3066

静岡県工業技術研究所

沼津工業技術支援センター

〒410-0022 沼津市大岡3981-1

TEL 055-925-1100 FAX 055-925-1108

静岡県工業技術研究所

富士工業技術支援センター

〒417-8550 富士市末広20-6

TEL 0545-35-5190 FAX 0545-35-5195

静岡県工業技術研究所

浜松工業技術支援センター

〒431-2103 浜松市浜名区新都田1-3-3

TEL 053-428-4151 FAX 053-428-4160

令和6年度 年報
静岡県工業技術研究所

令和8年3月発行

編集・発行

静岡県工業技術研究所

企画調整部

〒421-1298 静岡市葵区牧ヶ谷2078

TEL 054-278-3028

FAX 054-278-3066